いつでも，どこでも社会人に優しい通信制大学院

# 日本大学　大学院
# 総合社会情報研究科

## 通信制大学院

### 博士前期課程

2年制

総合社会情報専攻

### 博士後期課程

3年制

総合社会情報専攻

## 2027

学際的な学びを目指して

前期課程は３専攻から１専攻へ

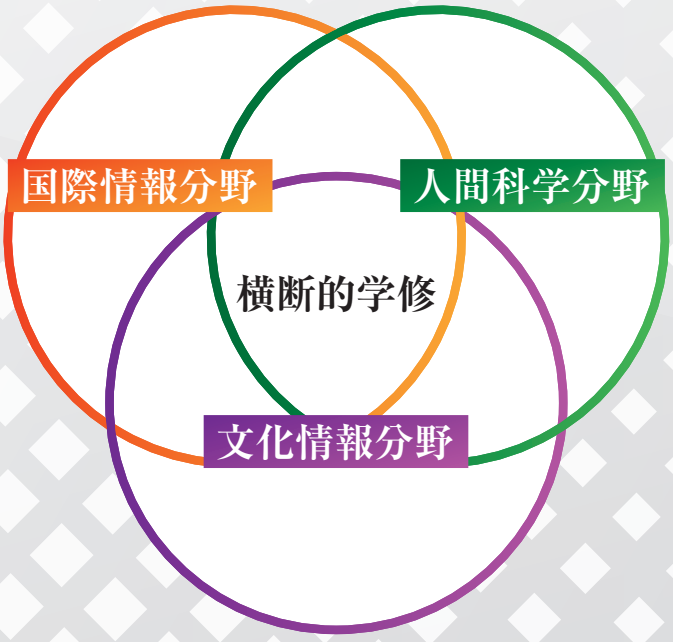
# 幅広い学問分野を網羅。
# 「学びたい」気持ちに応える
# 通信制大学院。

実社会における自分自身のグレードアップのために，幅広い分野を学ぼうとしている方に，自己実現の場を提供。
年齢・場所などの制約を越え，多彩な学修方法を利用して勉学の意欲を持ち続ける社会人の方に
「いつでも，どこでも」学べる環境を整えて，皆さんの入学をお待ちしています。

博士前期課程は従来の3専攻から1専攻に改組し，学びやすさをさらに追求しました。

## 博士前期課程（2年制）

総合社会情報専攻




学際的な学びも取り組む前期課程

## 博士後期課程（3年制）

総合社会情報専攻




発展的に専門性を極める後期課程



日本大学大学院
総合社会情報研究科

研究科長　陸　亦群

## 研究科長からのメッセージ

現代社会は,グローバル化の加速,情報技術の急速な進展,気候変動,そしてポストパンデミック時代における社会構造の変容など,複合的で予測困難な課題に直面しています。このような時代に求められるのは,既存の知識の再生産に留まらず,自ら課題を発見し,理論と実践を往還しながら,創造的な解決策を構築できる知的な主体です。

本研究科では,「国際情報」「文化情報」「人間科学」の3つの専門領域を軸とした,学際的かつ柔軟なカリキュラムを提供しています。これにより,深い教養に基づく問題発見能力と,多角的・創造的な思考力を育むことを目指しています。さらに,情報メディアを活用した多様な履修スタイルを整備し,時間的・地理的制約を超えて学びを深められる環境を用意しています。

本研究科での学びは,現代社会の根源的な課題に対応できる思考力と行動力を養う,かけがえのない機会となるでしょう。それぞれの生活環境と両立させながら,学問への探究心と学位取得への強い意志を持って学びに臨まれる皆さんを,心より歓迎いたします。

# Contents


3 「日本大学」が選ばれる7つのポイント

5 博士前期課程（2年制）
総合社会情報専攻

7 国際情報分野
経済・経営領域／国際・政治領域
専任教員紹介

15 文化情報分野
文化・文学領域／言語学領域
専任教員紹介

23 人間科学分野
哲学領域／心理学領域／教育学領域／
健康・スポーツ科学領域
専任教員紹介

31 博士後期課程（3年制）
総合社会情報専攻

33 国際情報分野
専任教員紹介

35 文化情報分野
専任教員紹介

36 人間科学分野
専任教員紹介

39 入学試験・学費概要
博士前期課程／博士後期課程

42 学生データ〈博士前期課程〉
学生数:年齢層別,職業別,地域別
総合社会情報研究科 修了者数
入試状況

43 キャンパス・学修環境

44 日本大学教育憲章

45 3つのポリシー
ディプロマ・ポリシー
カリキュラム・ポリシー
アドミッション・ポリシー

創設27年で

修了生1,736名の実績。

「日本大学」が選ばれる

# 7つのポイント

1

## 知の境界を越え、
## あなただけの専門性を編み出す。

分野を問わない「学際的アプローチ」と、複数分野の教員が伴走するアドバイザー制度。

2

## 通勤電車も、深夜の書斎も、学びの最前線。

忙しい社会人のすき間時間に届く、完全オンラインの丁寧なリポート指導。

3

## 指導は画面越しでも、対面でも。
## あなたのスケジュールが、常に最優先。

オンラインと対面を自由に組み合わせられる、社会人のための柔軟な個別指導システム。

4

## 凝縮された3日間が、思考を揺さぶる。

密度の高い直接指導に加え、教員・同級生・修了生が一堂に集う、スクーリング（前期課程）。

5

## 市ヶ谷駅徒歩5分。
## ビジネスの街から、学問の拠点へ。

仕事帰りにも立ち寄れる、都心の好アクセスキャンパス。

6

## ネット環境さえあれば、そこがあなたのゼミ室。

出張先からも、海外からも、国境なきオンラインゼミ。

7

## 学修を支えるつながりがここにある。

ゼミや合宿を重ねるたびに深まる、先輩・後輩・同期との縦横無尽なつながり。

# 博士前期課程

## 総合社会情報専攻　（2年制）

### 分野･領域一覧

| 分野 | コース | 研究内容 | 学位 | |
|---|---|---|---|---|
| 国際情報分野 | 経済･経営領域 | 経営学の基本科目（経営戦略論，組織論，アカウンティング，マーケティングなど）のほか，国際経済など，幅広い視点で学修できます。特にファミリービジネスに係る諸問題に対応して集中的に開講しています。 | 修士（総合社会文化） | P 9 ~11 |
| | 国際･政治領域 | 複雑な国内外の情勢を見極め，さまざまな社会課題に主体的に取り組むため，多様な切り口での研究ができます。国際関係，国際政治や地域活性化，日本政治史などは一歩踏み込んだ研究テーマを取り上げています。 | | P11 ~13 |
| 文化情報分野 | 文化･文学領域 | 文学･演劇･映像･メディアなど，さまざまな文化について研究を深めます（比較文学，日本古代文学，日本近代文学，西南中国民族など）。また，翻訳の理論と実践，多様な文化間の情報伝達や相互理解についても学べます。 | | P17 ~19 |
| | 言語学領域 | 言語学習･教育についての最新の理論を踏まえた言語指導･学習方法を学びます。研究領域は日本語教育学，言語テスト，英語教育学などがあります。 | | P19 ~21 |
| 人間科学分野 | 哲学領域 | 現象学を中心とする現代哲学の，主に20世紀以後の西洋現代哲学を研究します。人間の存在について十分な理解力を持った人材育成を目標としています。 | | P25 |
| | 心理学領域 | 心理学の視点から，人の行動や意思決定，認知などを研究します。人がかかわる社会課題について，心理学の理論や研究方法を使って課題解決するための提案ができることを目指します。 | | P26 |
| | 教育学領域 | 社会的に着目度の高い，現代の教育課題に対応できる人材を育成する，教育方法論，教育思想，教育心理学などを研究します。 | | P27 ~28 |
| 人間科学分野 | 健康･スポーツ科学領域 | 人間の健康と身体活動に関する科学的知見を総合的に探究します。スポーツ科学、健康科学、身体運動科学などの分野を基盤として、身体活動、健康増進、メンタルヘルス、生活習慣などを対象に研究を行い、人々のQOL（生活の質）の向上に資する知識と実践的能力を養います。 | 修士（人間科学） | P28 ~30 |

## 入学から修了までの流れ（博士前期課程の例）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年 | ●履修登録指導（ゼミ）<br>●特別研究指導（ゼミ）4月以降随時 | | | | | ●前期リポート提出期限<br>●スクーリング | | | | ●最終リポート提出期限 | | ●次年度履修登録 |
| 2年 | | | ●論文題目の届出（1回目） | ●研究（中間）発表会 | | ●前期リポート提出期限 | | | ●論文題目の届出（最終）<br>●修士論文提出 | ●最終リポート提出期限<br>●学位の面接試問 | | ●学位記伝達式 |

# 特別研究（修士論文）の進め方（一例）

### 研究内容の提出と指導教員の決定

- 研究内容は，事前相談時（出願前）に指導希望教員が確認
- 指導希望教員は，原則，事前相談時に決定

### 「研究計画書」の作成・提出

- 入学後，指導教員と相談し，受験時に作成した「研究計画書」に基づき，具体的な研究時期・研究方法も含めて再作成・提出（1年次前期）

### 「研究計画書」に基づき個人研究

- 特別研究指導（ゼミ），科目履修を通じて研究計画に沿った学修やその周辺領域の学修を重ねる
- 指導教員からの指導，ゼミ活動，科目履修は，オンライン会議システム及びリポート提出システムなどを活用

### 「草稿」の作成・提出

- 中間発表会までに「研究計画書」に基づき，研究を進め草稿を作成する
- 中間発表会では，草稿の内容を踏まえた発表となる

### 中間発表会

- 修士論文の完成に先立ち，2年次の7月に，これまでの研究成果（途中過程）を発表する機会がある（任意）
- 発表を通じて，研究内容に対する教員からのアドバイス，他学生との意見交換が行われる。修士論文の完成に向けて，その情報を有効活用する

### 「修士論文」作成・提出

- 2年次の12月に修士論文を提出するにあたって，11月までには「最終稿」を指導教員に提出する
- 「修士論文」の提出時に，「論文要旨」も併せて提出する
  それぞれの字数・内容・補助資料等については，指導教員の指示に従う

### 面接試問

- 「修士論文」を所定の期日までに提出し，面接試問（来校対面）による論文審査を行う

# 国際情報分野

## グローバルな視野と鋭敏な感覚を持ち，
## 指導的かつ先端的な立場で現代的課題に取り組む人材を育成する

国際情勢の帰趨と世界と日本の在り方に対する広い視野と鋭敏な感覚を持ち，経済・経営及び国際・政治の領域で，指導的かつ先端的な役割を担い，国際化及び国内の政治・経済が直面する現代的課題に自主的に取り組むことができる資質・能力を持つ人材を育成します。

実務家は社会の現場で体験する問題の本質を見抜き，その解決に向けた論理的なアプローチ方法を提案するために必要な経営的スキルを身に付けることと，社会における問題との関係性を透徹する深い視野に基づいて，その解決策を実行できる能力の修得を目標とします。研究者にあっては，学際的な視点から顕在あるいは潜在している課題を発見し，論理的に仮説を構築し検証を行う自律的研究遂行能力の修得を目標とします。



加藤教授の指導風景



神井教授の個別指導

## 2つの領域

### 経済・経営領域

経営・経済領域では，主に経営や経済に関するテーマの講義が設置されています。具体的には，経済理論及び経済政策に係る学び，グローバルな経営に必要なスキル，ファミリービジネス及び地方創生における問題解決に向けた視点を養うことができるように構成され，ビジネス領域で自主性を重んじ指導的な役割を担う能力の獲得を目指しています。

［特別研究　論文題目例］

- 長野県の企業事例にみるファミリービジネスに係る一考察
- 地方の中小企業の中間管理職に求められるリーダーシップに関する一考察
- ファミリービジネスへの会計事務所の新たな貢献の可能性について
- 大型ショッピングセンターの進出に伴って変化する地元商店街の活性化を考える
- 食品卸売業における商品開発とブランド・マーケティング
- 規制緩和で誕生したタワーマンションの行方の考察
- 学校法人のガバナンスの構築について
- 介護を中心とする日本のヘルスケア領域の課題と次世代の介護ビジネスについての一考察

### 国際・政治領域

国際・政治領域では，複雑な国内外の情勢を見極め，様々な社会課題解決に主体的に取り組めるよう，講義が設置されています。

具体的には，国際関係，国際政治や国内の地域活性化，日本政治史など，大局的な観点と実践的なスキルを併せ持って，社会課題を研究し，解決策を主導できる能力の獲得を目指しています。

［特別研究　論文題目例］

- タイの日系企業における労務政策が与える影響
- エコノミック・ガーデニングからみる地域経済の持続的発展
- 観光政策による訪日外国人旅行者需要増加と地域経済発展に関する研究
- 防災情報の提供方法がもたらす避難行動の変化についての考察
- 現代日本における土地有効利用のための総合的土地政策に向けた一考察
- 世界農業遺産認定による観光産業の振興と地域経済活性化に関する研究
- 日本の水産加工業における成長戦略の研究
- 濱田恒之助知事による富山市の電気軌道計画に関する研究

## カリキュラム

研究法入門１（２単位）・研究法入門２（２単位）・特別研究（６単位）が必修科目になります。
その他に各自の研究テーマに関連する科目を20単位以上（うち所属領域のコア科目12単位以上）修得します。
修了要件として合計30単位以上を修得する必要があります。
**各領域のコア科目は以下のとおりですが，別分野を含めた別領域のコア科目も，２科目（８単位）を上限に選択が可能です。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 必修科目 | | ・研究法入門１（2）　・研究法入門２（2）　・特別研究（6） | | |
| コア科目 | 経済・経営領域 | ・経済理論特講（4） | ・人材マネジメント論特講（4） | ・事業承継論特講（4） |
| | | ・国際経済政策論特講（4） | ・多国籍企業論特講（4） | ・事業創造論特講（4） |
| | | ・グローバル経営戦略論特講（4） | ・流通ビジネス論特講（4） | ・地方創生・振興論特講（4） |
| | | ・現代ファイナンス論特講（4） | ・ビジネス法特講（4） | ・ローカルビジネス論特講（4） |
| | | ・アカウンティング論特講（4） | ・ファミリービジネス論特講（4） | |
| | | ・マーケティング論特講（4） | ・ファミリーガバナンス論特講（4） | |
| | 国際・政治領域 | ・現代政治学特講（4） | ・危機管理論特講（4） | ・国際メディア論特講（4） |
| | | ・国際法特講（4） | ・組織倫理論特講（4） | ・日中比較社会論特講（4） |
| | | ・国際政治論特講（4） | ・日本政治史論特講（4） | |
| | | ・多文化共生論（4） | ・都市計画論特講（4） | |
| | | ・国際関係論特講（4） | ・地方共生論特講（4） | |
| | | ・行政論特講（4） | ・知的財産論特講（4） | |
| 専攻共通科目 | | ・調査分析特講（4） | ・統計基礎Ⅰ（2） | |
| | | ・行動経済学特講（4） | ・統計基礎Ⅱ（2） | |

※都合により開講科目を変更する場合があります。　※（　）は単位数です。

## 在籍時の声



### 大学院での出会い、学びから夢の実現へ

私は日本大学通信教育部の卒業生です。大学では経済学に興味を持ち経済学部を専攻しました。そこでの学びを通して商業にも興味を持ち、加藤教授の講義を受講しました。加藤教授の講義は非常に興味深く、それをきっかけに引き続きゼミに所属し、大学院での学びを深めたいと考えるようになりました。大学院では、志を持つ多くの仲間に出会いました。経営者の方や企業で役職に就いている方、個人事業主の方など本業では出会うことが出来ない様々な業種の方々との交流があり、多くの刺激を受けています。また、私が所属する加藤ゼミでのつながりは研究を進める上でも貴重です。加藤教授をはじめ、OBの方々やゼミ生同士が研究の進め方に関するアドバイスをし合っており、通信制大学院でありながらもゼミ内の交流は盛んだと思います。年に一度の軽井沢ゼミ合宿や希望者による研修旅行も行っています。私は、入学前より起業について漠然とした興味がありました。しかし、大学院での学び、研究や交流を通じてより現実的なものとして捉えるようになりました。当大学院で切磋琢磨できる仲間に出会わなければそのような考えの変化はなかったと思っています。今後も夢の実現に向けて大学院での学びを深めていきたいと思っています。

**三井　絵里子**

## 修了後の声



### 実務の経験を活かしつつ学びを深める

地域事業に携わる中で、実務経験だけでは整理しきれない課題に直面し、それらを理論的に理解したいと考え、大学院進学を決意しました。日々の業務で抱く違和感や問いを言語化し、自分なりの軸を持ちたいという思いもありました。仕事と両立しながらの学びとなりますが、時間の確保と集中力との闘いが続き、計画通りにならないことも多く、不安に感じることもありましたが、指導教員の丁寧なご指導とゼミの先輩方の助言に支えられ、学びを続けることができました。また、同じ国際情報専攻の院生とも交流し、情報共有や意見交換を行いながら励まし合い、学びを深めることができました。所属ゼミを越えたつながりは心強く、学修を続ける力となりました。修士論文では実務に根差したテーマに取り組み、「課題を構造的に捉え、論理的に整理し、他者に伝える力」が身についたと実感しています。大学院での経験は現在の業務にも直結し、自身の専門性を高める大きな財産となっています。学び続けた時間は自分にとって大きな自信となりました。

**林　聖子**

経済・経営
領域



## 陸 亦群 教授
Riku, Yugun

**学位**
博士（経済学）

**主な職歴**
日本大学通信教育部（教授）　日本大学経済学部（教授）を経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**
現在の研究は，企業生産活動のグローバル化と地域経済との関連性を念頭に置きつつ，もの作りアーキテクチャのモジュラー化と細分化分業との関わりに焦点を当てている。新しい国際分業関係，すなわち生産工程における細分化分業関係を前提にして，日本には新興諸国との協業関係を意識した新たな成長戦略が求められ，グローバルな視点から地方創生について探究したい。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
国際経済政策論特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
国際分業と経済開発，産業集積と地域経済，経済開発戦略

**❷ 特別研究の研究領域**
本特別研究では，国際通商政策，経済活動のグローバル化と地域経済を主な研究領域とする。国際通商政策の歴史的推移，世界経済のグローバル化の進展と新しい国際分業の出現，産業集積そして企業生産活動のグローバル化といった要因に着目し，地域経済問題，国際経済問題に対してグローバルなアプローチ，すなわち地球規模の政策視野をもって理論的実証的な分析を通して考察することを目指したい。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
院生各自の問題意識と主体的な研究姿勢を尊重し，研究課題を決定する。研究計画を作成し，それに即して研究指導を行うが，国際貿易と経済開発の分析視点に立って，理論と実証の両面から国際経済政策を分析する研究能力の育成を目指す。

**❹ 特別研究の進め方**
主に以下のようなプロセスで研究指導を行う。

1．研究テーマの選定
2．研究計画の作成
3．研究テーマ関連の参考文献目録の作成
4．先行研究成果の概観と先行研究の内容検討
5．研究方法の策定と資料収集
6．研究内容を具体化し，論文作成に着手
7．論文の構成案を作成し，中間報告
8．論文の草稿を作成し，中間報告
9．修士論文の完稿

経済・経営
領域



## 加藤 孝治 教授
Kato, Koji

**学位**
博士（総合社会文化）

**主な職歴**
1988年　日本興業銀行（現みずほ銀行）
2015年　目白大学経営学部教授
2019年　日本大学大学院総合社会情報研究科教授（現職）

**指導・研究における特色，プロフィール**
銀行在籍中に取り組んだ産業調査の経験，企業分析のノウハウに基づき，幅広く業界研究を中心に経営学に関連する研究をサポートします。また，日本のファミリービジネスに着目しており，事業承継の問題について具体的な企業事例を踏まえた研究指導を行います。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
研究法入門1，研究法入門2，人材マネジメント論特講，ファミリービジネス論特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
経営組織論・流通論・ファミリービジネス研究・食品産業研究

**❷ 特別研究の研究領域**
特別研究では，企業経営全般，特にファミリービジネスに係る研究指導をしてします。企業経営に関する研究では，企業行動（戦略，組織，マーケティングなど）の幅広い分野が対象となります。また，ファミリービジネスに関連する分野に関する研究については，事業承継やファミリーガバナンスなどを取り上げます。対象産業は幅広く消費・生活関連産業（小売・食品・医療）や，流通産業（物流など）に関わる産業構造も取り上げます。また，グローバル化に伴う企業組織の問題点について興味のある方に対する指導も行っています。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
企業活動やファミリービジネスなど応用的な分野の研究を行っていますが，基本的な経営理論の理解は前提となります。経営学の基本的な知識など，必要な知識は大学院での科目履修を通じてマスターしてください。基本を押さえることで，みなさんが社会人生活の中で感じている企業活動・企業経営における疑問・問題点，ファミリービジネスに関する問題意識に対する研究はスムーズに手掛けられるようなります。研究を進める際には，各自の問題意識に基づき，能動的に情報を収集し，その内容を理論化・モデル化するようにしてください。学びは，ゼミ生相互の意見交換を活発にすることで深まります。ゼミ生の交流を重視していますので，仲間とともに学び，それぞれの研究目的を達成してください。

**❹ 特別研究の進め方**
特別研究では，テーマの絞り込みが最も重要です。最初にみなさんの持っている問題意識を解決するために，どのような切り口で，いつまでに何を考えるのが良いのかということを，学生と指導教員でじっくり話し合い，テーマを絞り込んでスケジュールを作成してもらいます。研究アプローチの方法が決まったら，ゴールに向けて着実に研究に取り組んでください。ただし，その過程で，テーマの再設定，アプローチ方法の確認，研究に必要な情報収集，仮説作成などの問題に直面します。そのときは，指導教員からのアドバイスだけではなく，共に学ぶゼミ生同士の情報交換が有効です。対面指導とネットを活用した指導，ゼミ生が集まるFace to Faceの場を活用してください。対面ゼミや合宿の機会を設けて，仲間との多くのコミュニケーションの時間を作り一緒に研究が仕上がるように進めていきます。

教員情報は2026年7月のものです。諸事情により，変更が生じる場合があります。
最新の教員情報は本学ホームページ＞教員紹介をご参照ください。

**総合社会情報研究科ホームページ**
**https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/**

経済・経営
領域



## 前野 高章 教授
Maeno, Takaaki

**学位**
博士（経済学）

**主な職歴**
2023年　日本大学通信教育部教授
2023年　日本大学大学院総合社会情報研究科教授

**指導・研究における特色，プロフィール**
「国際貿易は一国の経済を豊かなものにする」という視点のもと，国際貿易と貿易障壁の関係性について研究をしています。特別研究においては，経済活動と非関税措置の関係性を考察することを目的とし，国際的な制度設計が国内市場や海外市場における経済主体に与える影響について実証的・政策的なアプローチから研究に取り組んでいきたいと思います。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
国際経済政策論特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
通商政策と貿易障壁，国際分業と経済開発，グローバル化と地域経済発展

**❷ 特別研究の研究領域**
本特別研究では，国際貿易と通商政策，国際分業・海外直接投資と経済開発，グローバル化と地域経済発展を主な研究領域とする。グローバル化の進展に伴う国際貿易構造の変化，企業の海外進出に伴う国際分業の変化，国際制度の設計に伴う貿易障壁への影響，国際取引の円滑化に伴う地域経済活性化などの国際経済的要因に着目し，理論的・実証的・政策的な分析視点から，グローバル市場やローカル市場が抱える課題を分析・考察することを目指す。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
国際経済政策，特に通商政策，の分野において多面的な影響を分析する研究能力を育成することを目標とする。研究課題は各自の問題意識と研究意義の両面から決定し，国際経済学の分析視点から修士論文の作成を試みる。

**❹ 特別研究の進め方**
以下の項目に沿って修士論文の作成を試みる。
定期的な中間報告を実施し，論文作成のための研究指導を行う。
1.研究課題の選定
2.研究計画の作成
3.研究課題関連の先行研究の収集と内容検討
4.研究方法の策定および関連するデータや資料の収集
5.研究内容や研究意義の確認と論文作成の開始
6.論文の校正案を作成
7.論文の草稿を作成
8.修士論文の完稿

経済・経営
領域



## 井上 葉子 教授
Inoue, Yoko

**学位**
修士（商学）

**主な職歴**
2001年4月 - 2004年3月　早稲田大学商学部助手
2004年4月 - 2008年3月　日本大学商学部助手
2011年4月 - 2012年8月　ハーバード大学客員研究員
2017年4月 - 2017年9月　カリフォルニア大学バークレー校客員研究員
2008年4月 - 2020年　日本大学商学部准教授
2020年 - 2024年　日本大学商学部教授

**指導・研究における特色，プロフィール**
学生の目標を深く理解して指導すること。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
多国籍企業論特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
国際ビジネス，グローバル・ビジネス・エコシステム

**❷ 特別研究の研究領域**
グローバルな視点に立脚した地域ビジネスの可能性の比較・分析研究。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
グローバル事例と地域現状の融合。

**❹ 特別研究の進め方**
できるだけ受講生のひとりひとりに合わせ，丁寧にカリキュラムを組んだ研究を進めていく。

経済・経営
領域



## 黒澤 壮史 准教授
Kurosawa, Masashi

**学位**
修士（商学）

**主な職歴**
山梨学院大学経営情報学部専任講師，准教授
神戸学院大学経営学部准教授
日本大学商学部准教授

**指導・研究における特色，プロフィール**
リサーチ・クエスチョンを固めるプロセスに時間を割くことで，「自分にしかできない研究」を行なって頂くことを大切にしています。英国Wales大学MBAコース東京校での指導経験が2014年からあるため，社会人教育には経験を有しています。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
グローバル経営戦略論特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
グローバル経営戦略論特講

**❷ 特別研究の研究領域**
経営戦略論，経営組織論，イノベーションなど。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
学位論文は学術論文ですので，リサーチ・クエスチョン（研究上の問い）を何よりも大事にしています。そのため論文執筆においては，「言いたいこと」よりも「明らかにしたいこと（知りたいこと）」を優先して頂いています。「言いたいこと」のためではなく，誠実に調査と分析を行った結果として，「言えること」を言語化して頂くことを研究指導上は大切にして頂いています。

**❹ 特別研究の進め方**
研究の目的でもある，適切なリサーチ・クエスチョンを固めることを最も優先しています。適切なリサーチ・クエスチョンの設定には，先行研究が何をどこまで明らかにしているのか，文献調査することが重要になってきます。その上で，リサーチ・クエスチョンに対して最も適切な調査・分析手法の設計を行います。

個人的な信条としては，研究テーマは教員が押し付けるものではなく学生の皆さんの奥底にあるものを大切にして頂いています。自分にしかできない研究，ということを意識して頂いています。

また大学院とはいえ，「学校」ではありますので同じ研究指導の仲間たちと助け合いながら進めて頂くことを期待しています。

国際・政治
領域



## 神井 弘之 教授
Kamii, Hiroyuki

**学位**
博士（学術）

**主な職歴**
農林水産省大臣官房審議官，統計部管理課長，食品製造課長，三重県庁マーケティング室長，政策研究大学院大学特任教授（農業政策コースディレクター）などを経て現職。

**指導・研究における特色，プロフィール**
院生の皆さんが，地に足の着いた問題意識を大切にしながら，学術的な考察を深めていただけるよう，サポートしていきます。私自身が，実務家（行政官）として社会課題解決に向けた研究活動に取り組み，悪戦苦闘して来ましたので，その経験を活かして，院生の皆さんのお役に立てればと考えています。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
研究法入門1，研究法入門2，組織倫理論特講，地方共生論特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
地域活性化研究，食料・農業・農村政策研究，フードシステム研究など

**❷ 特別研究の研究領域**
地域活性化，なかでも農山村地域の振興，農業・食品産業の振興，食料・農業・農村政策を対象にした研究を行います。また，持続可能な社会の構築のために欠かせない自然資本（森林，農地，河川など）のマネジメントについても研究対象とします。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
本特別研究の受講対象として，社会人経験のある院生の皆さんを想定しています。具体的な事例の情報を数多く持っておられる院生の皆さんに，もっとも重視していただきたいのは，的確な問（リサーチクエスチョン）を立てることです。学術的な考察を深めていく際に必要不可欠な概念の明確化，理論の組み立てのための足場を固めていただくため，しっかりとコミュニケーションをとって行きます。

**❹ 特別研究の進め方**
まずは，問題意識の明確化と問題設定を行うために，対話型の指導（オンライン中心）を行います。続いて，院生の皆さんが，理論・先行研究の調査，概念の明確化，分析枠組の検討等を行って研究計画を作成できるよう，指導します。この際，並行して，基礎的な文献を用いて，社会科学の研究を行う際のリサーチデザイン，標準的な方法論等に関する知識の修得を支援します。
この後，院生の皆さんが，研究計画に則して，自ら計画的に調査・分析を実施し，論文の執筆作業を進められるよう，指導します。時間的制約の中，着実に論文執筆を進めるため，節目節目で，論文構成案の報告，論文草稿の中間報告等の機会を設け，修士論文の完成を支援します。

教員情報は2026年7月のものです。諸事情により，変更が生じる場合があります。
最新の教員情報は本学ホームページ＞教員紹介をご参照ください。

総合社会情報研究科ホームページ
https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/

国際・政治
領域



## 瀧川 修吾 教授
Takigawa, Shugo

**学位**
博士（政治学）

**主な職歴**
日本橋学館大学リベラルアーツ学部（専任講師，准教授），日本大学危機管理学部（准教授）などを経て現職。

**指導・研究における特色，プロフィール**
本研究科での指導・研究は，今年で10年目を迎えました。通信制ですので，基本はオンラインやメールを活用した文書のやり取りや添削指導が中心となりますが，希望者には危機管理学部のゼミ生との交流やビデオ会議による指導の機会なども設けます。やはり研究成果は，様々な人の前で公表した方が楽しいものです。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
日本政治史論特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
日本政治史，日本政治思想史，政治学

**❷ 特別研究の研究領域**
日本政治史や思想史を研究するアプローチ方法は実に様々です。担当教員の経歴を考えるに，対象とする時代は，幕末から昭和までが望ましいです(平成・令和も対応できますが，古代や中近世は荷が重いです)。つぎに内容ですが，特定の事件や制度，政策，組織，人物の他，日本が対象ならば外交や地域，思想を対象とする研究も，共に学べれば楽しいので歓迎いたします。史料研究自体も行いますが私は政治学者であり，史学科卒ではないため，専ら古文書の解読を学びたい方は，遺憾ながら他をお探しください。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
皆さんが各々に選択する研究テーマにより，ポイントは変わってくるものと思われますが，やはり修士論文の完成を第一に考えるべきです。入学までにある程度，興味関心を整理しておき，早々に優れた先行研究と出会えるように準備をしておきましょう。好奇心旺盛は歓迎すべき長所ですが，博士前期課程の二年間は一瞬です。年限を気にせず学問と向き合えれば理想ですが，まずは専門性の高い修士論文をしっかりと完成させ，どうしても心残りがあるならば，それらは博士後期課程で取り組みましょう。

**❹ 特別研究の進め方**
まずは皆さん自身が研究テーマを決め，指導を受けつつ，必要な参考文献や資料を収集し，論文の適切なアウトラインを作り上げることが目標です。各自の力量やテーマにも拠りますが，通常このアウトラインは何度も作り直すことになるはずです。大抵は欲張りすぎて，一冊の本でも纏めきれない壮大な議題設定をしてしまうからなのですが，これは決して無駄にはなりません。主題の周辺を把握することは，自分の論文の学術的意義を知る上で必要な作業ですし，今後の研究課題の発見にも繋がります。イメージとしては，周辺を広く学びつつ，これだというピンポイントを見定め，深く掘り下げると良いでしょう。

国際・政治
領域



## 日吉 秀松 教授
Hiyoshi, Hidematsu

**学位**
博士（国際関係）

**主な職歴**
日本大学スポーツ科学部　教授などを経て現職。

**指導・研究における特色，プロフィール**
現代中国政治体制の構造を解明するためには，文化大革命（以下は文革と略称）の発生原因や目的を明らかにすることが必要であります。しかし、グローバリゼーションの恩恵をうけて経済発展を遂げた中国では，文革に関する研究は今現在、実質的に禁止されています。こうした背景のもとで、文革研究に携わる場合、その関連資料をしっかりと収集した上研究を進めます。また、国際政治に関する研究においては、リアリズム理論と心理学理論を組み合わせることで国際社会の諸事象を多角的に分析し解明することができ、新たな国際政治理論の確立も不可能ではありません。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
国際関係論特講,特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
国際関係学・現代中国政治史（とりわけプロレタリア階級文化大革命など政治運動に関する研究）・政治学

**❷ 特別研究の研究領域**
本特別研究では，日中関係や米中関係の変遷と，現代中国政治と対外政策の変化を研究領域とします。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
中国の各時期における内外政策の決定過程を明らかにし，日米両国の対中政策変化の原因を分析するよう指導します。院生自身が決めた研究テーマに沿って積極的に先行研究を調べ，関連資料を収集し整理したうえで，修士論文を完成させます。

**❹ 特別研究の進め方**
教員の指導を受けつつ，研究方法と目的を明確にし，慎重にテーマを選定したうえで論文を作成します。したがって，本特別研究の進め方は以下の通りです。

1．テーマの選定
2．研究計画書の作成
3．テーマと関係する先行研究の調べと整理
4．参考文献や資料の収集
5．仮説の立案と検証
6．論文執筆
7．第一次途中報告
8．論文の修正
9．第二次途中報告
10．論文の修正
11．論文の完成

国際・政治
領域



## 大八木 時広 准教授
Ooyagi, Tokihiro

**学位**
修士（政治学）

**主な職歴**
日本大学危機管理学部准教授などを経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**
日本大学法学部，同大学院法学研究科で政治学（国際政治）を学びました。現在，危機管理学部に在籍しますが，本研究科では国際政治学全般について扱い，なかでも欧州統合を中心にEUの危機管理的側面を研究対象とします。国際政治理論，国際政治史，地域研究の観点からアプローチしてください。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
国際政治論特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
国際政治学，欧州統合研究

**❷ 特別研究の研究領域**
特別研究では国際政治学全般について扱います。その中には，国際政治理論，国際政治史，地域研究が含まれます。受講者の研究分野に合わせて上記の研究領域からさらに特定領域に絞り込むことがあります。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
特定の時代や事件のみに受講生の興味・関心が偏らないよう，大きな歴史的流れを意識するような指導を行います。また社会科学的思考法を意識した研究指導を心掛けます。受講生には自分の選んだ研究テーマが国際政治の歴史的流れの中でどのような意義と位置づけがあるかについて意識を持つことが求められます。

**❹ 特別研究の進め方**
まず担当教員のアドバイスの下で各自の研究テーマを決めます。テーマ設定は研究の質にかかわる大事な作業ですので，時間をかけて行うことになります。担当教員によってテーマ設定をし直すこともあります。次にそのテーマに関して参考文献や資料を探す作業に入ります。参考文献や資料の質と量も研究の質を左右しますので，入念な検索を行います。その後，入手した文献と資料を各自が読み込む作業となります。国際政治学は他の社会科学と同様，膨大な文献を読み込む作業が研究を進めるうえで必須となってきます。多量の読書を伴うことは覚悟してください。そうした読書を行う一方でテーマに関する分析を行います。この分析については国際政治学の場合，比較という手法が有効です。最終的に結論を導き出し論稿にまとめます。

## 博士前期課程　国際情報分野の学修アドバイス　加藤 孝治 教授

### 考える力を総動員して、「具体」と「抽象」の間を行き来しましょう！

修士論文を書き上げることによって、皆さんのご活躍の「場」が飛躍的に広がります。
修士論文をまとめるプロセスで考える力を総動員していただく必要があるからです。
このプロセスを経た皆さんは、豊富な知識の中から要点をおさえたコメントを行うことができて、意見交換の相手との議論も噛み合い、新しい知の創出に貢献する人財として評価されるでしょう。経験談や蘊蓄を披露することに終始し、言いっ放しになってしまう懸念は払拭することができます。
そのためには、限られた時間のなかで、「具体」と「抽象」の間を行き来しながら、学術的な考察を深めていただく必要があります。個人的な関心事項からスタートし、「思考の客観性と抽象度を高めて研究で取り組む問題を設定する」「様々な先行研究・理論を調べながら概念を明確化する」「概念を具体化して、調査・検証を行う」というプロセスを計画的に進めて行きましょう。着実に論文執筆を進めていただくための環境は整えられています。通信制大学院ですので、皆さんのご都合次第で、スケジュールは柔軟に組み立てることが可能です。まずは的確な「問（リサーチ・クエスチョン）」を立てるところからスタートしましょう。



教員情報は2026年7月のものです。諸事情により，変更が生じる場合があります。
最新の教員情報は本学ホームページ＞教員紹介をご参照ください。

**総合社会情報研究科ホームページ**
**https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/**







# 文化情報分野

## グローバル・コミュニティに
## 寄与する文化エキスパートを養成する

多様な文化に対する適正な理解だけでなく，時代・地域・社会を超えて，伝播し変容を遂げる文化の可変的・動態的特質を十分に理解して，文化の受信・発信・媒介を行うエキスパートの育成を目指します。文化・文学領域では，比較文学を軸に文学や漫画など多様な文化的所産を歴史社会的文脈で理解する文化リテラシーを高めます。言語学領域では，国境を越えて移動する人々の言葉と文化の課題を理解し，それを踏まえた日本語教育や英語教育を行う資質・能力を高めます。2つの領域を両輪に，グローバル・コミュニティの構築に寄与できる文化翻訳者としての能力の獲得を教育の目的としています。



島田教授の個別指導



秋草准教授の個別指導

## 2つの領域

### 文化・文学領域

文化・文学領域では，比較文学，メディア文化論，翻訳論特講等で文化とその伝達について理論的に学びます。さらに，古代から近現代までの日本文化，中国語圏文化，英語圏文化などについても専門的知見を深めます。

**［特別研究　論文題目例］**

- 「シャーロック・ホームズ」シリーズの邦訳における翻訳規範
  ―延原謙の訳文を中心に
- 物語としての『草汁漫画』論―『草汁漫画』の比喩表現から見える批判性について
- 古代日本人と亀―“異形の亀”の受容と変遷
- 翻訳テクストから考える外国文学の受容
  ―J・スウィフト『ガリヴァ旅行記』に焦点を当てて
- オスカー・ワイルド「幸福な王子」の日本における児童向け作品としての受容史
  ―教材として流通し続ける外国文学についての一考察
- 書き記されるセクシュアリティ―三島由紀夫と村上春樹を読む
- 近松世話浄瑠璃論―近松が捉えた大坂
- 『菅家後集』における白楽天詩を初めとした中国文学の影響と『菅家後集』に表現された菅原道真の心境の変化について
  ―「不出門」の主題についての考察を中心に

### 言語学領域

言語学領域では，言語学，社会言語学などの科目で言語学について，また第二言語習得論，言語教育工学，日本語／英語教育方法論などの科目で，最新の学修法と指導法，授業デザインについて学びます。教育現場で活用できる実践的な知見とスキルの修得をめざします。

**［特別研究　論文題目例］**

- ウクライナ人日本語学習者の日本語オノマトペに対する音象徴認識
- 中学英語教育におけるシャドーイングの効果
- 日本語と英語のほめの表現に関する比較研究
- サービス日本語教育における日本語教師支援ツールの開発と評価
  ―ホテルレストラン業務に特化したCan-doリストとルーブリック評価票―
- 項目改訂がテストの精度に与える影響
  ―日本語オンライン・プレースメントテストを例に―
- モンゴル人日本語学習者及び教師の平仮名学習に関するビリーフ
- 補習授業校で日本語を学ぶ児童のための授業デザイン
  ―「読む」力を育てる授業において―
- ChatGPTを活用した「やさしい日本語」翻訳に関する研究
  ―公用文を例に―

## カリキュラム

研究法入門１(２単位)・研究法入門２(２単位)・特別研究(６単位)が必修科目になります。
その他に各自の研究テーマに関連する科目を20単位以上(うち所属領域のコア科目12単位以上)修得します。
修了要件として合計30単位以上を修得する必要があります。
**各領域のコア科目は以下のとおりですが，別分野を含めた別領域のコア科目も，２科目（８単位）を上限に選択が可能です。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 必修科目 | | ・研究法入門１(2)　・研究法入門２(2)　・特別研究(6) | | |
| コア科目 | 文化・文学領域 | ・比較文学特講(4) | ・アジア文化論特講(4) | |
| | | ・世界文学特講(4) | ・英語圏文化論特講(4) | |
| | | ・翻訳論特講(4) | | |
| | | ・メディア文化論特講(4) | | |
| | | ・日本文化論特講Ⅰ(4) | | |
| | | ・日本文化論特講Ⅱ(4) | | |
| | 言語学領域 | ・言語教育学特講(4) | ・言語教育工学特講(4) | ・英語教育方法論特講(4) |
| | | ・言語教育研究特講(4) | ・言語教育デザイン論特講(4) | |
| | | ・言語学特講(4) | ・日本語学特講(4) | |
| | | ・異文化間コミュニケーション論特講(4) | ・日本語教育方法論特講(4) | |
| | | ・社会言語学特講(4) | ・日本語教育研究法特講(4) | |
| | | ・第二言語習得論特講(4) | ・英語学特講(4) | |
| 専攻共通科目 | | ・調査分析特講(4) | ・統計基礎Ⅰ(2) | |
| | | ・行動経済学特講(4) | ・統計基礎Ⅱ(2) | |

※都合により開講科目を変更する場合があります。　※(　)は単位数です。

## 在籍時の声



### 自分に何ができるか ―ずっと、子どもに関わり続けたい―

日本人学校での勤務をきっかけに、子どもの日本語教育に関心をもつようになりました。地域の日本語教室や小学校での日本語支援ボランティアを経験する中で、「子どもたちのために何ができるだろうか」という思いはしだいに大きくなり、本研究科への入学を決めました。日本語教育学は初めての分野なので不安もありましたが、入学してみると、先生方や仲間に恵まれた充実した２年間となりました。それまで経験だけを頼りにやってきたことに理論が結びついたとき、「これだったのか」と腑に落ちた感覚がありました。最初はレポートやゼミでの発表に苦労しましたが、先生の丁寧で細やかな指導と仲間との切磋琢磨によって、なんとか乗り切ることができました。日本語教育学の面白さに惹かれ、前期課程修了後は研究生を経て後期課程へ進学し、現在も上海からオンラインで学びを続けています。また、文化情報専攻の先生方や仲間とともに、GSSC日本語クラブで日本語支援を行っており、今年で５年目になります。支援をしている子どもたちが日本語を上達させていく姿は、私自身にとっても大きな励みになります。「自分に何ができるだろうか」と考え続けながら、学びと経験を携えて子どもたちに関わり続けられることが、日々の活力の源です。

**山下　志織**

## 修了後の声



### 興味を研究につなげる

皆さんは大学院にどういった印象をお持ちですか。研究が得意な人だけが行くところだと思っていませんか。もし、「これから何かを研究してみたいけれど、どうしたらいいかわからない」と悩んでいるなら、迷わず一歩踏み出すことをお勧めします。実際、私は自分の研究分野を持ちたいと考え始めたのが大学院進学のきっかけでした。言語や翻訳について自分なりに学んで来たつもりでしたが、自分の中に蓄積されたものをどのように研究と結び付けるのか、何もわからないまま個別相談会に申し込みました。通勤中や家事の合間などの限られた時間を活用してレポート課題をこなし、オンラインゼミでさまざまな職業の仲間と議論を重ね、先生方からは数えきれないほどのアドバイスをいただきました。知識面だけでなく、自分の主張を支える根拠の見つけ方や整理の仕方、物事を多角的に分析することの重要性を学びました。最終的に修論のテーマとしたのは、ある文学作品の受容過程において翻訳が果たした役割を考察するものです。こうした多くの貴重な経験を踏まえ、修了後は翻訳業務にとどまらず、職場の国際化にも貢献できるよう尽力しています。

**青木　みあ**

文化・文学
領域



## 清水 享 教授
Shimizu, Toru

**学位**
博士（文学）

**主な職歴**
日本大学，明治大学，法政大学，東京学芸大学，東京農業大学，実践女子大学（兼任，非常勤講師），東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（共同研究員），国立民族博物館（共同研究員）などを経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**
東アジアにおける民族の文化，社会，歴史の研究を歴史学と文化人類学から進めます。東アジアの多様な文化，社会，歴史を多角的に把握することを目指します。また文化，社会の背景にある経済史や生態環境史の視点から立体的な研究を進めます。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
アジア文化論特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
西南中国民族研究，日本文化研究

**❷ 特別研究の研究領域**
中国雲南省や四川省のさまざまな民族を中心として東アジアと東南アジア大陸部のフィールドから，文化，社会，歴史の研究について対応したいと思います。歴史学，文化人類学，考古学などの学問分野からのアプローチの方法を指導します。研究課題は複眼的な視点による学際的研究や地域研究を進めるものでも構いません。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
自ら関心のある研究課題を設定し，その課題に一つの答えが出るように指導を進めます。各研究分野の基礎的な思考を学び，広い視点で研究課題を分析考察できるようにします。先行研究の把握，資料収集の方法を経て課題の分析考察を進めます。修士論文作成については理論上の問題がないよう丁寧な指導を心掛けます。

**❹ 特別研究の進め方**
院生自ら研究課題を設定し，研究計画を立てます。研究アプローチの分野の方法論を把握しつつ，先行研究の整理を進めます。調査や資料収集の方法を検討し，データの蓄積を進めます。分析考察を進めつつ論文の構成を考えて，作成を進めます。課題設定から執筆までその都度，Eメール，サイバーゼミ，面接授業，面接指導により論文の指導を進めます。

文化・文学
領域



## 野口 恵子 教授
Noguchi, Keiko

**学位**
修士（文学）

**主な職歴**
日本大学法学部（教授）などを経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**
基本文献を読みながら，どのような研究テーマが立てられるのかを模索することから始める。その際，日本の古代文学の表現性に着目したい。作品が成立した時代の論理に基づいた読み方を解明する必要があると考えているからである。そのため，取り扱う専門分野は日本文学に限らない。考古学・文化人類学・社会学・歴史学・地理学・芸術学など多岐にわたる。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
日本文化論特講Ⅰ，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
日本古代文学，日本古代文化

**❷ 特別研究の研究領域**
主に，日本の古代文学・古代文化に関する研究領域を対象とする。それを，日本国内における問題として捉えることもあるが，東アジアからの影響を視野に入れながら考察することもある。また享受に関する研究，つまり平安時代，鎌倉時代，室町時代，江戸時代などの後世の人々が捉えた古代文学・古代文化を研究対象にすることも重要な研究だと考えている。一方で，高等学校の国語科教科書も研究対象にしている。教材化された各時代の文学作品に対して，専門的な立場からその適否を評価し，今後のあるべき方向を提言する，もしくはどのような事情で教材となったのか，その歴史的な経緯や意義などを明らかにすることも必要だと考えている。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
院生にとっての修士論文は，それを書いた時の生き様を映すものだと考えている。従って，院生が現在興味を持っていることを研究テーマとして優先したい。しかし，限られた時間の中で成果を出さなければならないので，場合によってはテーマを限定するよう求めることがある。また，学外で行われている研究の現場を，自分の目で確かめることによって研究意欲が高まることがあるので，国内外で行われている学会発表，シンポジウム，講演会などへの出席も促す。院生自身が学会での研究発表を希望する場合は，その指導も行う。加えて，現地調査を奨励する。

**❹ 特別研究の進め方**
まずは研究テーマに関連する資料収集と資料整理，その内容に対する問題提起を繰り返してもらう。こうした基本的・実践的な作業を通して論文構成を検討し，さらに考証を積み重ねた上で，最終的にはオリジナルな論証結果もしくは問題提起を明示してもらう。指導方法は，定期的なe-mailによる指導が中心になるが，日時場所を調整して直接指導も数回は行いたい。

教員情報は2026年7月のものです。諸事情により，変更が生じる場合があります。
最新の教員情報は本学ホームページ＞教員紹介をご参照ください。

**総合社会情報研究科ホームページ**
**https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/**

文化・文学
領域



## 鍋本 由徳 教授

Nabemoto, Yoshinori

**学位**

修士（文学）

**主な職歴**

日本大学文理学部史学科助手，日本大学通信教育部助教，准教授を経て，現職

**指導・研究における特色，プロフィール**

歴史は日常生活でも話題にできる身近な分野です。老若男女を問わず，専門・非専門を問わず扱える身近さの反面，多くの危険性をもっています。人びとが残したモノには悪意ある虚説が混じることもあります。それが事実の歪曲につながり，伝え方次第では，それらが“正しい”と思われることもあります。「過ぎたことよりも、今や未来が大事」「だから歴史は趣味で充分」と言われることも少なくありません。ならば，なぜ歴史学は学問として生き続けているのでしょうか。安心して歴史に触れられる環境はどうやって作られるのでしょうか。それらを心に留めながら，“学問としての歴史”を考えていきたいです。専門分野やテーマは、それを考える一つの素材です。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目

日本文化論特講 II、特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**

歴史学・日本近世政治史（近世初期対外関係を含む）

**❷ 特別研究の研究領域**

近世（16世紀末～19世紀半ば）日本における，政治・社会・文化を研究領域として考えています。現在，歴史学にはさまざまなアプローチがあり，どのアプローチも魅力的です。しかし，どれほど魅力的なアプローチであったとしても，それらは基礎的な研究方法の上に成り立っていることを忘れてはいけません。特別研究では，この基礎的な研究方法をしっかりと身につけることを前提として，私が専門領域とする近世政治史，武家社会論や異文化交流を中心に扱います。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**

歴史学が誕生して数百年経過しました。やはり文献史学では「史料読解」を基本としていることに変わりはありません。いわゆる歴史学研究法は，かつて学部の「史学概論」などを通じて学んでいました。しかし，現在は基本的な研究法よりも，アプローチの多様性を重視し，歴史研究の基本の技術を扱わないまま研究を進めるような印象を与えるケースが少なからずみられます。「基本に忠実であれ」をもとにして，学説の整理法，論点の置き方，文献史料の扱い方など，研究の基礎となる方法論をしっかりと身につけ，その上で歴史学とは何かを意識できる指導をめざします。

**❹ 特別研究の進め方**

テーマを決定する時，時代像を適切に把握するため，最初は概説的（通史的）内容の確認を重点的におこないます。特定のテーマのみ詳しくても，その時代そのものを知らなければ，歴史のなかでテーマを位置付けることができないからです。その後，研究の潮流（研究史），さらに特定テーマに関する学説史をまとめるための文献収集，物証となる歴史資料（主に文献）の収集へと進みます。あえて研究史と学説史を分けた理由は，歴史学の研究動向としての特徴を把握し，そのなかで「テーマに対する先行研究」を位置づけるためです。各種歴史資料の整理・分析を通して積み上がるさまざまな課題を検討し，最終的に研究のオリジナル性が見出せる研究へ発展するような作業を，自主的に進められるようにします。指導は原則としてメールを利用します。オンラインを使った同時双方向性を活かした遠隔指導，あるいは対面指導については，必要に応じて検討します。

文化・文学
領域



## 秋草 俊一郎 准教授

Akikusa, Shun'ichiro

**学位**

博士（文学）

**主な職歴**

日本学術振興会（特別研究員），ハーバード大学（客員研究員），東京大学教養学部（専任講師）などを経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**

20世紀以降の日本およびロシア・欧米の言語文化研究をひろくおこなう。その際，世界文学や翻訳理論における近年の議論を紹介する。フランコ・モレッティやデイヴィッド・ダムロッシュの世界文学への近年の取り組みをときに講師自身の翻訳で紹介しながら，背景となった現代の文化状況について理解をうながしたい。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目

研究法入門1，研究法入門2，比較文学特講，世界文学特講，翻訳論特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**

比較文学(日本・英米・ロシアなどふくむ)，翻訳研究

**❷ 特別研究の研究領域**

博士前期課程においては欧米や日本の言語文化，文学研究，翻訳研究，出版文化，それに準ずる文化研究であれば可能なかぎり対応したいと思っています。文献を丁寧に読むことをいとわない，知的好奇心にとんだ方を歓迎します。以下に過去ふくめゼミ生の研究例をあげておきます。もちろんこのような研究でなくてはいけないということはありませんが，参考までに。

1．シャーロック・ホームズの邦訳の研究。数あるホームズ訳の歴史を調べ，どのような訳文が主流になったのか探求する。

2．現代日本文学が英語圏でどう読まれているのか。戦後の日本文学の，主にアメリカでの受容について，出版社や翻訳などさまざまな観点から研究する。

3．中国のノーベル文学賞受賞作家莫言の世界的な受容について。チャン・イーモウによる映画化，ノーベル文学賞受賞，翻訳などの観点から分析する。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**

院生一人一人が関心ある研究課題にとりくみ，修士論文を完成できるよう指導します。研究課題の妥当性や，資料収集，議論展開，論文執筆など，ひとつひとつ段階的に指導をおこないます。それぞれの関心にもとづき，国内外の関連学会・国際会議やシンポジウムなどに参加するよう求めます。

**❹ 特別研究の進め方**

ゼミ生全員参加のサイバーゼミと，関心に応じたグループでのゼミをおこないます。個別ゼミ・個別指導・面談も，要望や必要に応じて随時おこなっています。学会への引率などの活動もあります。院生同士の発表を通じて発表力や批判力を，小グループのゼミで文献読解力や語学力，専門的な知識を身につけていきます。修士論文の提出が近くなるにしたがい，個別で添削指導や内容についての面談が増えていきます。

文化・文学
領域



## 猪野 恵也 准教授
Ino, Keiya

**学位**
修士（文学）

**主な職歴**
日本工業大学，日本大学文理学部，日本大学法学部（講師），日本大学通信教育部（准教授）などを経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**
英文学研究は作品の解釈を議論する場を与えてくれます。読書とは何か，読者とは何かが再考されています。最新の研究のトレンドを念頭に置きながら，基本(精読)を大切にして，常に学生と連絡や対話をしながら指導をしていきます。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
英語圏文化論特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
20世紀英語文学

**❷ 特別研究の研究領域**
20世紀イギリス文学，アングロ・アイリッシュ文学，時には19世紀イギリス文学などが考えられる。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
英語文学研究の基本は英語の精読である。1週間で原書を1冊読了すること，3時間ほどかけて5,6行の英語をじっくり読むこと，両方とも重要である。したがって，1週間に1度オンラインで90分間の自主読書会をやります(履修者と教員の都合のよい時間帯)。作品に対する切り口も大切なので先行研究をなるべく多く紹介します。

**❹ 特別研究の進め方**
研究対象の作家と作品を決定し，その作品を精読すること。作品に対する切り口を定め，その切り口に関する先行研究を収集し，まとめること。先行研究がたどり着いた点から研究が始まります。論文執筆のこのようなプロセスを踏まえ，学生と相談しながら計画を立て，論文を執筆してもらいます。学生と頻繁に連絡を取りながら指導します。

言語学
領域



## 石部 尚登 教授
Ishibe, Naoto

**学位**
博士（言語文化学）

**主な職歴**
東京外国語大学（研究員）、名古屋市立大学（研究員）、日本大学理工学部（教授）などを経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**
社会言語学を対象に，言語政策・方言復興・フランコフォニー・言語の権力や差別などを軸とした研究に広く対応します。言語を単なるコミュニケーションの手段としてではなく，問題を引き起こし，持続させ，あるいは解決する力をもつものとして捉える視点を大切にしていきます。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
社会言語学特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
社会言語学、地域研究（ベルギー）、批判的談話研究

**❷ 特別研究の研究領域**
マクロな社会言語学を対象とします。具体的には，言語政策，言語法，多言語国家，地域語／方言復興運動，言語戦争，言語境界線，言語調査，言語権，言語帝国主義，言語差別，言語の権力，フランス語圏（フランコフォニー），言語内変種，言語的中心と周縁，多（複）言語主義，移民統合政策と言語要件，外交言語などをキーワードとする研究が考えられますが，実際の社会における「ことばの在り方」や「ことばを用いた活動」を考察する研究であれば幅広く対応したいと思います。また，アプローチとして批判的談話分析を取りいれる研究にも可能な限り対応します。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
院生各自の興味や関心がなによりも大事だと考えるため，まずは修士論文で取り組みたい研究テーマを自身で設定してもらいます。そのうえで，修士論文としてまとめることができるように，相談してテーマの絞り込みをおこない決定します。続いて，先行研究の整理をおこないますが，ここではできる限り包括的，網羅的に文献にあたるよう心がけます。各自のオリジナルな研究に着手するために，前段階としてのこれらの作業をしっかりと確実に，かつ丁寧におこないます。

**❹ 特別研究の進め方**
相談の下で策定する研究計画とスケジュールに従い，段階的に研究を進めていきます。研究テーマの設定と先行研究のまとめを終えた後は，手法の決定，資料収集と分析／現地調査，考察，論文執筆とその都度必要となる助言をおこないます。また，定期的に面談の場を設けるようにして進捗状況を確認します。修士論文の完成に至るまで最大限の支援をしますが，研究には主体的，自律的に取り組んでください。
なお，自身の研究の推進とともに，研究テーマに関連する学会や研究会には積極的に参加するようにし，可能な限り発表の機会を作るよう努めてください。

言語学
領域



## 小林 和歌子 教授
Kobayashi, Wakako

**学位**
教育学博士（Ed.D.）

**主な職歴**
国立音楽大学非常勤講師，青山学院大学非常勤講師，中央大学兼担講師等，日本大学文理学部助教，准教授，を経て現職。現在日本大学文理学部グローバル教育研究センター長。早稲田大学政治経済学術院非常勤講師等。

**指導・研究における特色，プロフィール**
米国（マサチューセッツ州）と英国（ケンブリッジ）に短期・長期留学経験あり。2019年には日本大学海外派遣研究員（短期B）として米国ハワイ大学マノア校にて客員研究員を務める。2023年11月にはTemple University Japan CampusよりDistinguished Alumni Award（優秀卒業生賞）を受賞。CEFRの概念である生涯教育としての英語学習を基本とし多様性及びグローバル化時代における外国語教育を広く研究することを目標とする。Action-oriented approachを目指し指導研究する。

### 担当科目
言語教育学特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
英語教授法（TESOL），応用言語学（Applied Linguistics），第二言語習得理論（SLA）

**❷ 特別研究の研究領域**
TESOL及びSLA研究全般に関わるテーマに対応する。具体的にはCERR, Can-Do, Learning Strategies, Vygotsky's Sociocultural Theory, Extensive Reading, CALL, 動機付け等が考えられる。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
適切な研究テーマの中から文献研究，研究方法（質的研究・量的研究等），データ収集及び分析・考察に取り組むこと。定期的に共に学ぶ機会を持つことを心がけている。短期目標中期目標を明確にし，修士論文を執筆及び完成出来る様に指導する。

**❹ 特別研究の進め方**
1年次は先行文献に広くあたり，徐々に興味のある分野を絞り先行研究を纏め，各自の修士論文という最終地点に向かって着実に研究計画に沿って進めることを目指す。2年次にかけてデータ収集・分析を実施し中間発表〈10月〉を経て12月には修士論文提出を目標とする。

言語学
領域



## 島田 めぐみ 教授
Shimada, Megumi

**学位**
博士（心理学）

**主な職歴**
日本貿易振興会国際交流部（ビジネス日本語担当アドバイザー），東京学芸大学留学生センター（教授）などを経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**
学習者主体の教育へのシフト，学習者の多様化，社会のグローバル化などにより，日本語教育のあり方も変容しつつある。その中で，広い視野に立ち，研究を行う能力を重視する。また，先行研究における研究の位置付けを明確にし，正しい研究手法を選択できるよう指導する。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
研究法入門1，研究法入門2，言語教育研究特講，日本語教育方法論特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
日本語教育学，言語テスト，言語接触，ビジネス・コミュニケーション

**❷ 特別研究の研究領域**
日本語教育全般，社会言語学に関わるテーマについて対応する。具体的には，教育現場における教授や評価の方法の検討，教材分析，言語テスト，ビジネス・コミュニケーションに関する理論や実践研究，社会言語学的現象の検討，習得研究などが考えられる。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
研究には，適切な研究テーマを設定すること，研究を遂行するための方法に関する知識を持っていること，実際に行動する能力を持っていること，この3点が重要である。そのため，テーマの設定の仕方や研究・分析方法などについて学ぶ場を提供する。そして，それぞれ関心のあるテーマにおいて，これらのことを実践し，修士論文を執筆できるよう指導する。

**❹ 特別研究の進め方**
1年次は，まず，それぞれ関心のあるテーマについて先行研究をまとめ，自分の研究の位置付けを明確にすることから始める。また，同時に，研究方法（質的研究，量的研究，データ収集方法，データ分析方法など）について学び，適切な研究手法を選定し，研究計画を立てる。一年次後半には，データ収集をスタートさせる。2年次前半は，データ分析を行い，中間発表を経て，論文を執筆する。

# 文化情報分野 博士前期課程

言語学
領域



## 田嶋 倫雄 准教授
Tajima, Michio

**学位**
M.A. in Linguistics

**主な職歴**
Northeastern Junior College（非常勤講師），大東文化大学地域連携センター（講師）などを経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**
英語学習者に対してどのような教育方法を取ることがより効率が良いのか，学習者群を社会心理学的にとらえるとどのような特徴があるのか，また産官学連携に係る英語教育にはどういった事項が推奨されるのか，など知見を養う。それに伴いデータの取得，またその分析方法も取り入れ学際的な研究が進められるようになることを目指す。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
第二言語習得論特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
英語教育学

**❷ 特別研究の研究領域**
英語教授法または第二言語習得の研究であれば対応するよう努めます。大枠の研究テーマ例として，外国語としての英語習得の学習者観察と分析，学習者の情意面からみる英語学習，効果的な英語教授法，グローバル化を考慮した産官学連携英語教育，国際語としての英語教育など，英語教授法に係る範囲で課題を設定し，実際にデータ収集し精査・分析をする。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
各自が研究テーマを設定し，先行研究及び資料を包括的に読解，データ収集，分析，論文執筆に取り組むこと。できるだけ多く調査・検討し，総合的・分析的研究において自分の学術的視点を明確にし，統計手法を用いて分析し，論文にまとめていくように実施すること。また，関連する学術会議への出席や口頭研究発表に参加し，多くの学者・研究者の研究発表にも触れていくこと。

**❹ 特別研究の進め方**
目安として以下の順序で進めていく。第1年次は研究テーマの絞り込み，先行研究収集と精読，研究計画を作成する。5月末までに興味のある事柄の概要を決定，6月末に主要な先行研究のリスト，8月末に文献調査結果の概観をすること。10月下旬には研究テーマを仮決定し，11月下旬に試行研究調査計画書の提出，2月中旬にその結果を提出すること。第2年次には，論文の概要決定，データ収集と分析，論文の完成へと進めていく。4月初頭に研究テーマを明確化し，5月初旬に研究動機・文献研究・研究方法・結果(予想)から成る簡易草稿を提出する。6月下旬までにデータ収集を完了し，分析の後7月中旬に図表提出をすること。8月末を第1回草稿提出の締め切りとし，9月下旬から10月にかけて前期課程研究(中間)発表会を行う。10月末を第2回草稿提出締め切りとし，12月に修士論文提出とする。尚，教員や他の院生からのフィードバックを参考に加筆・修正を繰り返し，修士論文を完成させ提出すること。

## 博士前期課程　文化情報分野の学修アドバイス　島田 めぐみ 教授

### 博士前期課程で最も重要な目標は，自分の研究分野の研究手法を「マスター」することです。



文化情報分野では，テクストや社会を研究対象とする文化・文学領域と，言語や人を研究対象とする言語学領域に分かれています。テクストにおける文化，社会における文化，言語における文化，人における文化など，多種多様で多層的な文化を研究の対象にします。その共通の基盤となるのが，文化間の出会いや往還により，文化は変容したり，混淆したり，新たに生み出されたりするものであるという文化の捉え方です。
このような観点から，比較文学や翻訳の研究，日本文学の研究，文化人類学の研究，言語変異の研究，言語習得の研究，言語文化教育の研究など，それぞれ自分の研究テーマに取り組みます。文化の捉え方は共通していても，研究分野によって研究手法は異なります。博士前期課程では，まず，自分が研究する分野の研究手法にはどのようなものがあるかを学び，それを「マスター」することが主要な目標になります。研究手法については，研究法入門１・２の授業で指導を受けることになりますが，自分の分野の論文を丹念に読み込むと，研究の進め方やまとめ方がイメージできるようになります。自分の思い描いた論文を書くためにも，まずは，主体的に先行研究をきちんと読むことをお勧めします。

教員情報は2026年7月のものです。諸事情により，変更が生じる場合があります。
最新の教員情報は本学ホームページ＞教員紹介をご参照ください。

**総合社会情報研究科ホームページ**
**https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/**









# 人間科学分野

## 哲学，心理学，教育学，健康・スポーツ科学を軸に
## 幅広い学問的アプローチにより人間存在の基本問題を総合的に解明する

本専攻は，公共機関と私企業とを問わず様々な社会的活動領域において，現代の先端的なニーズに対応するために，人間存在の基本問題について十分な知見をもって活躍できる人材を養成することを目標とします。哲学，心理学，教育学，健康・スポーツ科学の４つの領域を支柱に据えながら，人間理解に不可欠な諸学問を有機的な連関において配列し，人間存在をめぐる現代的状況を深く理解できるように配慮しています。



北村教授の個別指導



釋教授の個別指導

## 4つの領域

### ●修士（総合社会文化）

#### 哲学領域
（哲学史特講，宗教哲学特講等）

［特別研究　論文題目例］
- ●江戸思想史における儒教の受容と変容
- ●宗教とは何か　―空海と西田幾多郎―
- ●禅思想からみた矯正教育の可能性に関する一考察
- ●人間とは何か　<世界平和への一考察>
- ●現代日本人の宗教意識
- ●宗教的生き方の一考察
  ―マキシミリアノ・コルベ神父の生涯を中心にして―

#### 心理学領域
（心理学史特講，心理学研究法特講等）

［特別研究　論文題目例］
- ●看護職のキャリアアップに及ぼす心理的影響要因
- ●人工音の印象に関する心理学的研究
  ―電子音へのセンシティビティの検討―
- ●母親の心理学的研究
  ―母親の人並み志向と育児ストレスについて―
- ●トップアスリートの競技意欲に関する
  心理測定の検討

#### 教育学領域
（生涯学習論特講，教育心理学特講等）

［特別研究　論文題目例］
- ●自閉症児の感覚認知障害の要因と
  思われるものへの行動学的アプローチ
- ●ライフスタイルの改善のための健康教育
  ―運動習慣の形成について―
- ●社員教育の生涯教育における役割の一考察
- ●青年の居場所について
- ●高等学校中途退学に関する一考察
- ●図書館学教育の端緒における日米比較の試み
- ●高等学校におけるキャリア教育の方向性
  ―新規学卒一括採用制度を前提として―

### ●修士（人間科学）

#### 健康・スポーツ科学領域
（健康科学特講、スポーツ運動学特講等）

［特別研究　論文題目例］
- ●高位頸髄損傷者に対するスポーツレクリエーション支援
  ―冬山のバイスキーにおけるシーティング技術と
  体調管理の検討と試み―
- ●事前画像処理を駆使した頑健性の高い胸部X線画像
  診断のための畳み込みニューラルネットワークの
  構築に関する予備的検討
- ●運動習慣獲得後における運動継続者と中断者の比較
  ―運動習慣を中断しないための考察―
- ●競泳選手の腰痛に対する後期運動療法の検討・
  ブリッジ動作のリスク管理
  ―運動強度と呼気ガス分析―

## カリキュラム

研究法入門１（２単位）・研究法入門２（２単位）・特別研究（６単位）が必修科目になります。
その他に各自の研究テーマに関連する科目を20単位以上（うち所属領域のコア科目12単位以上）修得します。
修了要件として合計30単位以上を修得する必要があります。

**各領域のコア科目は以下のとおりですが，別分野を含めた別領域のコア科目も，２科目（８単位）を上限に選択が可能です。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 必修科目 | | ・研究法入門１（2）　・研究法入門２（2）　・特別研究（6） | | |
| コア科目 | 哲学領域 | ・社会哲学特講（4） | ・宗教哲学特講（4） | ・生命倫理学特講（4） |
| | | ・哲学史特講（4） | ・科学哲学特講（4） | ・社会思想史特講（4） |
| | 心理学領域 | ・心理学史特講（4） | ・社会心理学特講（4） | ・医療心理学特講（4） |
| | | ・心理学研究法特講（4） | ・産業・組織心理学特講（4） | ・行動分析学特講（4） |
| | | ・認知心理学特講（4） | ・臨床心理学特講（4） | ・コミュニケーション心理学特講（4） |
| | | ・高齢者心理学特講（4） | | |
| | 教育学領域 | ・生涯学習論特講（4） | ・教育心理学特講（4） | ・生徒指導論特講（4） |
| | | ・学校教育学特講（4） | ・教育臨床学特講（4） | ・教育評価論特講（4） |
| | 健康・スポーツ科学領域 | ・健康科学特講（4） | ・人間工学特講（4） | |
| | | ・安全学特講（4） | ・環境生理学特講（4） | |
| | | ・スポーツ運動学特講（4） | ・コーチング学特講（4） | |
| | | ・スポーツ医学特講（4） | ・スポーツ心理学特講（4） | |
| 専攻共通科目 | | ・調査分析特講（4） | ・統計基礎 I（2） | |
| | | ・行動経済学特講（4） | ・統計基礎 II（2） | |

※都合により開講科目を変更する場合があります。　※（　）は単位数です。

## 在籍時の声



### 現場経験を研究へ、研究成果を現場へ

私はアスレティックトレーナーとして陸上競技に携わりながら、社会人として仕事と大学院での学びを両立しています。日々、現場での課題や悩みは尽きません。「チームや選手のために」が大きな原動力となり、大学院への進学を決めました。通信制という学習環境は、家庭や仕事、チームサポートと並行して学びを深めるうえで非常に助かっております。大学院では、現場で感じていた疑問や課題を学術的に整理し、根拠をもってアプローチできる力が養われていると実感しています。ここで得た知識や経験を、自チームの選手のパフォーマンス向上に還元し、より質の高いサポートにつなげていきたいと考えています。

**阪本　将輝**

## 修了後の声



### 実務で抱いた問いを研究へ、研究で得た知見を実務へ

私が大学院で学ぼうと思ったきっかけは、実務を通じて抱いてきた「人はなぜ過ちや不正を繰り返すのか」という問いでした。実務の中で人や組織の判断に向き合ううちに、その背景には、責任の重さやプレッシャーといった心理的負担があるのではないかと考えるようになり、本研究科への進学を決めました。修士論文では、経営者の心理的負担が意思決定に及ぼす影響をテーマに、経営者へのインタビュー調査をもとに質的研究を行いました。在学中は、先生方の丁寧なご指導のもと、実務で感じていた問題意識を研究として整理し、得られた知見を再び実務へ活かしていくことの大切さを学びました。また、日本大学主催のグローバル研修では、オーストラリアで異文化に触れ、視野を広げる貴重な機会を得ました。社会人になってからの大学院生活には不安もありましたが、先生方や院生との交流を通じて、学び続けることの大切さを実感しました。学び直しを考えている方には、ぜひ一歩踏み出していただきたいです。

**佐藤　立**

哲学
領域



## 岡山 敬二 教授
Okayama, Keiji

**学位**
博士（哲学）

**主な職歴**
中央大学文学部（非常勤講師），中央大学理工学部（非常勤講師），日本大学法学部（教授）などを経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**
現象学とよばれる哲学のなかでも，フッサールの他者論をテーマにしてきました。ここしばらくは，ハイデガーの存在論を手がかりに，人間論と存在論とを両軸のテーマに考えています。何がどこまでわかり，どこからわからないのか，それをごまかさずに自覚・整理し，理をもって伝えることを大切にしながら，研究，指導を進めていきたいと思っています。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
社会思想史特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
現象学を中心とする現代哲学。おもに存在論，他者論や心身問題。

**❷ 特別研究の研究領域**
哲学的な考察が要求される問題をテーマとし，西洋哲学（おもに20世紀以後の西洋現代哲学）の古典的な文献を題材とした研究が望ましい。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
テーマを選択した動機や問題意識を整理し，その研究にとってどのような文献への参照が必要となるか検討し，基本文献を選択することが必要となる。基本文献の適切な読解を踏まえ，それについて独自に解釈，批判・検討を加えてゆくことが具体的な作業となる。こうして，先行研究との比較・検討を通じて，そのテーマについて独自の見解を論理的に説得力ある仕方で提示できるように指導していく。

**❹ 特別研究の進め方**
インターネットでの指導・対話を基本とするが，適宜，状況に応じて面接等の機会を設けていく。
・１年次の夏休み前までを目途にテーマを決定し，必要な文献を検討，収集していく。
・１年次夏休み中にテーマと文献について研究計画を作成する。
・２年次前半を目途に研究計画の再確認を兼ねて中間報告を行う。
・進捗状況に応じ，適宜，対応を重ねていく。

哲学
領域



## 中澤 瞳 准教授
Nakazawa, Hitomi

**学位**
博士（文学）

**主な職歴**
立教大学，明星大学，成蹊大学，東京理科大学，日本大学理工学部（非常勤講師），日本大学通信教育部（准教授），日本大学法学部（准教授）などを経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**
現象学，主にメルロ＝ポンティの現象学的身体論をテーマに研究を行ってきた。現在，フェミニズム理論の学的知見を参照しながら，大きくいって身体と社会，経験と社会の問題に関心をもって研究をしている。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
社会哲学特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
メルロ＝ポンティの現象学（主に身体論），フェミニズム理論

**❷ 特別研究の研究領域**
メルロ＝ポンティの現象学，または現象学とフェミニズム理論を架橋する身体，経験に関する研究が望ましい。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
論文には，問題，主張，そして主張を支える論拠がある。つまり論文とは，問題提起があり，提起された問題に対して主張が提示され，主張を支える論拠が明確な文章のことである。研究においては，選択したテーマをもとにまずは関連文献の調査から始める。文献調査を行う中で論文の問題設定を行い，その問題を通してどのような主張を，どのような論拠にもとづいて展開するのかについて明確にしていく。関連文献の読解，整理，批判的検討は論文執筆の上で中心的な作業になる。

**❹ 特別研究の進め方**
・修士論文のテーマをもとに先行研究調査を行いながら，夏休み前までに論文で扱う問題を絞り込んでいく。
・引き続き先行研究調査を行い，アウトラインを年末にかけて作り込んでいく。
・アウトラインをもとに執筆を行う。
・指導はメール，およびオンライン会議システムを使用する。進捗状況に応じて，適宜行う。

教員情報は2026年7月のものです。諸事情により，変更が生じる場合があります。
最新の教員情報は本学ホームページ＞教員紹介をご参照ください。

**総合社会情報研究科ホームページ**
**https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/**

心理学
領域



## 北村 世都 教授
Kitamura, Setsu

**学位**
博士（心理学）

**主な職歴**
日本学術振興会特別研究員，日本大学文理学部心理学科助教　聖徳大学心理・福祉学部心理学科准教授，教授を経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**
私の研究テーマの１つである認知症やその家族への支援は，一見，心理学とは結び付かないかもしれません。しかし認知機能に障害を持つ高齢者を我々がどのように理解するのか，彼らを社会的に排除してきた歴史には人のどのような心理に基づいたものなのかを検討することは，社会的にも意義のある心理学的研究テーマです。同様に，学生の興味を学術研究に昇華できるよう，対話やディスカッションを通して指導します。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
研究法入門1，研究法入門2，臨床心理学特講，高齢者心理学特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
老年臨床心理学

**❷ 特別研究の研究領域**
高齢者にかかわる諸課題を中心に，心理学研究法を用いて研究します。研究手法としては，質問紙調査，フィールドにおける介入をもとにした量的研究を中心に指導します。
1　認知症や介護家族に関するテーマ（高齢者，家族介護者の心理過程と効果的な心理支援法，職員との関係性など）
2　対人援助職に関するテーマ（ケアや支援の質と援助者のメンタルヘルス，共感性など）
3　福祉施設に関するテーマ（リーダーシップ，人材育成，組織支援法など）
4　面接技法・支援技法に関するテーマ（マイクロカウンセリング，認知症ケア技術など）

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
最初に学生が取り組みたい課題やテーマについて，心理学の枠組みでどのようにアプローチできるのかを検討し，テーマに関連する先行研究を集め，読み込みます。身近なテーマに取り組むためには，それをどれだけ「心理学の研究テーマ」に落とし込むことができるかが重要です。学生が取り組みたいテーマを，心理学的な研究テーマまで昇華させられるように，対話を重ねて指導していきます。このような対話の積み重ねが，批判的思考や根拠を持った主張のトレーニングにもなると考えています。

**❹ 特別研究の進め方**
1年次は，自分の研究テーマを心理学的に再定義し，関連する先行研究を幅広く集めて理解し，そのテーマについてすでに明らかになっていること，明らかになっていないこと，課題を整理していきます。後期には研究計画書を完成させて，仮説や具体的な研究プロトコルを決めていきます。2年次は計画に沿ってデータを収集し，データ分析の結果に基づいて論文執筆を進めます。

心理学
領域



## 時田 学 准教授
Tokita, Gaku

**学位**
博士（心理学）

**主な職歴**
千葉大学教育学部（非常勤講師），日本大学商学部（准教授）などを経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**
自らの気づき・興味などを起点として，それが単なる良い発想（思い付き）や感じた個人的体験ではなく，他人と共有することのできる研究課題として適切か，という観点から検討を加えていきます。また，論文執筆過程の中で，可能な限り学術的観点からの評価を受けることを目標として指導を実施致します。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
教育心理学特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
教育心理学，ロール・プレイング・コミュニケーション，生理心理学

**❷ 特別研究の研究領域**
「人間の行動」を対象とした「心理学的」・「教育的」な研究が望ましいと考えます。ここでの「教育的」とは広範囲に対象を考え，学校教育以外の職場内教育や成人を対象にした教育，地域の中での教育（人育て）等も対象となると考えます。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
研究課題は基本的に教育心理学的課題に関連する部分と考えられますが，いずれの研究課題を選択されても，論文（科学的論文）を執筆・完成することが最終目標になります。そこで，自ら研究課題を吟味することが必要になります。そのためには，研究課題について，資料を十分に集め，その資料を基に改めて研究課題について詳細に検討することが重要です。それら資料は書籍，専門的な論文が用いられます。また研究課題の解明のためには，課題解決に適切なデータを収集・解析し，結果を解釈することができなくてはなりません。そのためには，統計的知識も必要となると考えます。そこで通信制大学院ではありますが，必要に応じてメールのやり取りだけではなく，学修場面を設定し，必要な研究指導を実施致しますので，予定の調節など調整をお願いします。

**❹ 特別研究の進め方**
1.1年次前期研究課題の設定に必要な展望的研究，先行研究・関連資料等の資料収集，研究方法の検討。
2.1年次夏季面接・ゼミナール合宿等で，研究課題についての具体的実施計画の発表と検討。
3.1年次後期調査・実験などの計画と予備調査実施，資料収集継続。
4.2年次前期研究計画の最終調整と調査・実験などのデータ収集。
5.2年次夏季データ分析とゼミナール合宿での中間発表・可能であれば論文執筆。
6.2年次後期分析結果についての検討と論文執筆，原稿チェック，論文提出。

教育学
領域



## 古賀 徹 教授
Koga, Toru

**学位**
修士（教育学）

**主な職歴**
日本学術振興会（特別研究員），日本大学文理学部教育学科（助手），日本大学通信教育部（教授）

**指導・研究における特色，プロフィール**
フィンランド等の北欧福祉国家社会における学習観・生涯学習観について継続的な調査・研究を行っています。多角的な比較の視点，社会構成を理解する視点をもつこと。資料や文献を選び，分析する視点をもつこと。研究の視点を修得する楽しさを実感していただきたいと考えています。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
生涯学習論特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
国際教育，学習論，教育方法論

**❷ 特別研究の研究領域**
1.教育・学習に関する研究（例: PISA型学力と新しい学力観，など）
2.制度・歴史的研究（例: 日米における教員養成カリキュラムの比較研究，など）
3.地域における特色のある教育実践や教育政策（例：横浜市における青少年ボランティア活動・リーダーシップ研修の目的および効果，など）

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
研究テーマの設定と，その考察により「何を明らかにしたいのか」を固めること。期間内に「どこまで明らかにできるか」「どのような方法で導き出せるのか」という方法論・評価の視点や，先行研究の探索が重要です。「優れた先行研究」を見出すこと，ヒントとなる研究を見極めるのも「研究」でつく力だと考えています。資料の読解力，論理の構成や文章表現，調査の方法に慣れるためには研究書(文献)を読むことをおすすめします。

**❹ 特別研究の進め方**
1年次の早い時期より，研究の視点やペースについて，面談やオンラインツールをつかっての相談を開始します。全体でのオンラインゼミを開き，他にオンライン個別相談も行っています。また，研究室への来室はいつでも歓迎いたします。2年次の夏を目安に修士論文に関する中間報告の機会をつくります。

教育学
領域



## 田中 謙 教授
Tanaka, Ken

**学位**
博士（教育学）
博士（学術）

**主な職歴**
山梨県立大学人間福祉学部（講師・准教授）を経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**
広く子どもに関する研究テーマに対して，教育学，社会福祉学の双方向からアプローチする学際的研究を試みてきました。学際的研究の難しさを日々感じながらも，この視座に基づくことで初めて把握することができる社会課題の構造を明らかにする作業に楽しさも感じています。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
生徒指導論特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
教育学，保育学，社会福祉学，社会政策

**❷ 特別研究の研究領域**
上述の専門分野に係るテーマについて，主に政策科学，組織社会学の手法を援用しながら，文献調査法，フィールドワーク等の質的調査法による研究を想定しています。
1．教育学関連テーマ（組織マネジメント，特別支援教育，幼小接続等）
2．保育学関連テーマ（環境構成，ダイバーシティ・インクルージョン保育，組織マネジメント等）
3．社会福祉学関連テーマ（社会的養護，障害者福祉（療育）等）
4．社会政策関連テーマ（教育政策，福祉政策，政策学習，政策過程等）

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
希望する研究テーマにそって，まず「研究の目的」「仮説」「調査方法」の方向性を定めるために，先行研究の丁寧なレビューが最初に求められます。この作業に多くの時間をかけて分析を積み重ねることで，自らの論文の研究テーマを決めていくことができます。この作業を通して知的好奇心を高めていくことができるような学生への指導に努めていきたいと考えます。

**❹ 特別研究の進め方**
第1年次は，研究テーマの設定に向けた，先行研究のレビューと研究方法習得に関する学習，予備調査等を中心に研究活動を行っていきます。
第2年次は論文執筆に向けて，文献調査法や聞き取り調査等のフィールドワークによる質的調査法によるデータ収集，分析を行います。論文執筆過程の中で，可能であれば学会発表等にも積極的に取組むことを意識して進めていければと考えます。

教員情報は2026年7月のものです。諸事情により，変更が生じる場合があります。
最新の教員情報は本学ホームページ＞教員紹介をご参照ください。

**総合社会情報研究科ホームページ**
**https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/**

教育学
領域



## 黒田 友紀 准教授
Kuroda, Yuki

**学位**
修士（教育学）

**主な職歴**
静岡大学教育学部（専任講師），日本大学理工学部（准教授）などを経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**
アメリカ・カナダの学校制度や授業実践の比較研究を行いながら，日本の学校づくり・授業づくりの支援を行っています。教育の現象や問題について比較の手法や批判的な検討を行うことで，研究課題を追究していきましょう。また，大学院のコミュニティで仲間と学びあいながら，存分に研究を進めてもらいたいと思います。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
学校教育学特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
教育制度論，教育方法（評価）論，比較教育学，ジェンダーと教育

**❷ 特別研究の研究領域**
1．教育制度・政策に関する研究：学校改善の制度・政策
2．教育方法（評価）に関する研究：国際的な学力テスト・評価，授業と子どもの学び，教師の研修
3．ジェンダーと教育：女性管理職・教師研究，学校教育とジェンダー／セクシュアリティ

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
自分の研究したいテーマや問題を設定するために，まずは，これまでに行われてきた研究（先行研究）を徹底的に収集し，検討することが重要です。その検討を通して，修士論文で「何を」「どのように」明らかにするかを明確にしましょう。限られた時間やさまざま制約のなかで，いかに自分の主張を説得的に展開することができるかを追求してもらいたいと思います。

**❹ 特別研究の進め方**
・1年次前期は，研究テーマを検討・確定するために，先行研究・関連資料等の収集と検討を行います。先行研究をできる限り収集し，検討を行います。後期も先行研究の検討を続けながら，研究テーマの確定と具体的な研究計画の作成を行います。そして，面接やネットワークを利用して相談しながら，論文執筆を進めます。
・2年次は，各自のペースで論文執筆を進めますが，夏を目安に中間報告の機会を設け，内容の検討と今後の計画の確認を行います。後期は，個別に相談をしながら，論文の執筆を進め，論文を完成させます。

健康・
スポーツ科学
領域



## 釋 文雄 教授
Shaku, Fumio

**学位**
博士（医学）

**主な職歴**
日本大学附属板橋病院心療内科，国立精神神経センター国府台病院心療内科，旭川医科大学第3内科（消化器内科），名古屋大学総合診療科，筑波大学総合診療科，厚生省保険局，ミシガン州立大学家庭医療科

**指導・研究における特色，プロフィール**
臨床経験をベースとした心身医学，行動科学，さらにはヒトに関する生物学的・社会的側面からの研究・指導をおこないます。コミュニケーションをできるだけ取りながら研究を進めていくことで，新たな気づきや整理のできることが多くあり，ディスカッションも行いつつ指導を行うことを特色とします。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
研究法入門1，研究法入門2，健康科学特講，環境生理学特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
心身医学，メンタルヘルス，行動科学，ストレス科学，緩和ケア，プライマリ・ケア，医学教育

**❷ 特別研究の研究領域**
心身医学，メンタルヘルス，行動科学，のほかに，緩和ケア，プライマリ・ケア，医学教育をベースとして，臨床，学校現場などの教育を背景とした研究から，日常面での心理社会的テーマに関する研究も対象にします。さらに，ヒトの社会的側面の研究に関しても歓迎します。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
興味のある分野で研究を進めることが第一ですが，それが，実現可能かも考えながら研究プランを組むことも大切です。具体的なプランをともに考え，指導というよりも進めていくうえでのサポートを行う方針です。結果も重要ですが，結果に至るまでに意見のやり取りを通じてより良い研究ができることを期待しております。教科書や文献を読んで，自ら考えるとともに，ディスカッションを重ねていくと，その中で新たなアイディアや突破口が見えてくる場合も多くあります。研究上ではディスカッションをできるだけ行いたいと思います。

**❹ 特別研究の進め方**
テーマ選びと，それに関連する文献の収集から始め，仮説を立て，研究計画書を作成するとともに，必要があれば倫理審査委員会へ申請します。そののち研究の実施，結果の解析を行います。最終的には論文作成になりますが，すべての期間においてできるだけコミュニケーションをとりながら，小さな疑問点でも早めに解決しつつ進めることが大切です。
誰かに研究内容をわかりやすくプレゼンテーションすることを常に考えながら進めていきましょう。

健康・
スポーツ科学
領域



## 橋口 泰一 教授
Hashiguchi, Yasukazu

**学位**
修士（教育学）

**主な職歴**
日本大学文理学部（助教），日本大学松戸歯学部（准教授）などを経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**
どのような研究テーマにするか，私からのアプローチからではなく，自分の興味・関心，探求したい事柄を大切にし，テーマを見つけていきましょう。面談やネットワークを使っての相談を1年次から開始します。夏期・冬期・春期休暇を利用して，面接指導を適時実施します。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
スポーツ心理学特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
スポーツ心理学

**❷ 特別研究の研究領域**
スポーツ競技者のスポーツパフォーマンス向上のための研究
コーチの成長，コーチングスキル向上に向けた研究
パラスポーツ（障がい者スポーツ）の心理的強競技能力向上に関する研究

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
競技力向上に向けて，また健康になるため，様々な研究におけるアプローチがあります。その中の一つとして，スポーツ心理学を軸に研究を進めていきます。どのような研究テーマにするか，私からのアプローチからではなく，自分の興味・関心，探求したい事柄を大切にし，テーマを見つけていきましょう。したがって，スポーツ心理学への興味はもちろんのこと，基礎知識や研究法が必須となります。

**❹ 特別研究の進め方**
特別研究は，文献の探し方，データ分析の行い方，論文の書き方を中心に指導します。研究指導の前半は，心理学の研究法について習得し，テーマに関する論文の収集を行ない先行研究をまとめましょう。後半は，実験・調査等のデータ収集及び分析を行い論文を完成させます。
受講生の学修環境に応じて，面談やネットワークを使っての相談を1年次から開始します。夏期・冬期・春期休暇を利用して，面接指導を適時実施します。

1年次：研究テーマの決定，研究計画作成，研究方法の習得，関連文献収集，先行研究まとめ

2年次：研究計画再検討，実験・調査研究の実施。ゼミ合宿(予定)，中間発表，データ分析，論文執筆(論文指導)，修士論文提出

健康・
スポーツ科学
領域



## 森長 正樹 教授
Morinaga, Masaki

**学位**
修士（教育学）

**主な職歴**
株式会社ゴールドウィン，日本大学理工学部，スポーツ科学部（教授）などを経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**
陸上競技走り幅跳びの元日本記録保持者であり，1996年バルセロナオリンピック，2000年シドニーオリンピック日本代表。2017年から現在に至るまで日本陸上競技連盟強化委員（男子走り幅跳び），2018年から現在に至るまで関東学生陸上競技連盟強化副委員長を歴任しており，指導者としても活躍。これらの経験を生かして，運動の質的な研究および運動の発達や修正に関する主観的な研究を行っております。

詳しいプロフィールを見る

### 担当科目
スポーツ運動学特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**
スポーツ運動学

**❷ 特別研究の研究領域**
人間の運動の中でもスポーツにおける運動を研究対象とし，実際に行っている運動について直接観察を通してとらえられる運動の特性や構造を明らかにすることに力点を置きます。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**
研究課題を設定する上で，どのような運動を対象にし，どのような現象について研究するのかについて自身で精査しておく必要があります。また，スポーツ運動学研究では様々な方法論が存在することから，その方法論に関する知識を事前に修得しておく必要もあると思います。さらに，その方法論にインタビュー調査やアンケート調査が選択される場合には倫理審査が必要になる場合もあるので周到な準備が必要です。

**❹ 特別研究の進め方**
スポーツ運動学研究の中核的課題領域は，運動質，運動体系，運動発達，運動学修に関する理解，およびその理解をいかにして理論化することができるかが課題となります。さらには運動の自然性や美しさ，流動性といった領域も研究課題になり得ます。上記のことを念頭に置き，基本的には研究室などで対話による対面形式やZoomなどのアプリを使ったオンライン形式を利用して研究を進めていきます。しかし多くの場合は実際に起こっている運動を研究対象とするため，その現場での研究に関する打ち合わせや面談指導等も行います。

健康・
スポーツ科学
領域



## 山本 大 教授
Yamamoto, Dai

**学位**

修士（教育学）

**主な職歴**

2011年　Jリーグサッカークラブ大宮アルディージャ
　　スクールマスター
2016年　日本大学スポーツ科学部准教授
2023年　日本大学スポーツ科学部教授

**指導・研究における特色，プロフィール**

Jクラブ やJFAで10年以上のプロコーチとしての経験があります。現在も埼玉県サッカー協会の指導者養成部シニアチューターやU12トレセンにて，男子・女子両カテゴリーのリードコーチを担当しています。この実践的な経験を活かし，コーチングの本質，選手のパフォーマンス向上に焦点を当てて，チームやアスリートの成功を最大化するためのアプローチ方法，そしてコーチングスキルに関する研究を行っています。「選手や指導者に新たな気づき」を与えるために，理論と実践の両面からコーチングを学ぶことの重要性を指導します。

### 担当科目

コーチング学特講，特別研究

### 特別研究

**❶ 専門分野**

コーチング学

**❷ 特別研究の研究領域**

研究領域はコーチング学です。コーチング学は，選手のパフォーマンス向上，リーダーシップの理論と実践に焦点を当てた研究領域となります。戦術，トレーニング方法に関する内容や，チームやアスリートの成功を最大化するためのアプローチ方法，そしてコーチングスキルもテーマとして含まれます。

**❸ 特別研究の指導及び研究上のポイント**

コーチング学の研究では，研究成果を実践指導へ適用すること，つまりアスリートやコーチにわかりやすくフィードバックすることが求められます。みなさんが日ごろ指導現場において感じている課題や疑問，あるいは興味関心のある事柄などをテーマにし，研究に取り組んでもらいます。そのためにはコーチング学に関する基礎的な知識や研究方法について学修することが必須となります。

**❹ 特別研究の進め方**

研究計画は，基本的にはリポート，面接指導，プレゼンテーションなどで進めていきます。夏季や冬季，春季休暇を活用して個別科学領域の研究方法を演習し，正確なデータ測定能力を養います。1年次前半は先行研究収集とテーマ決定，研究方法の検討を行い，夏季は演習や統計処理方法学修，計画発表を行います。1年次後半から2年次前半まで実験，測定，調査を実施し，結果に対する考察の指導を受けながら夏季の中間発表を経て，2年次後半に修士論文を執筆します。

詳しいプロフィールを見る

## 博士前期課程　人間科学分野の学修アドバイス　北村 世都 教授

### 修了の鍵は，時間管理と教員・学生間のネットワークの活用にあり！

修士課程は２年間ですが，２年次の12月には修士論文を提出しなければならず，逆算すると，論文をまとめる時間は，実質的には１年半ほどしかありません（長期履修学生制度を除く）。そのため，研究活動や論文作成のための時間的なスケジュールを明確に意識しておく必要があります（このことは，開講時のオリエンテーションや，必修科目であるスクーリングでも強調します）。大半の学生が社会人なので，日常生活を含め，いかに時間を有効に活用するかが大きなポイントになります。特に人間科学専攻では，ヒトを対象にした研究も多く，倫理審査が必要となる場合がありますが，時間と手間を要するため，その点を見込んでおくことも求められます。そのためには，分からないことや困ったことがあれば，教員に問い合わせて頂くことをお願いしています（直接の指導教員でなくても構いません）。またスクーリング，ゼミでの活動，オープン大学院等を通じ，同級生・在学生・修了生のネットワークを持てるよう，配慮しています。通信制の大学院ということで，一人で論文・リポート作成に取り組むイメージが強いと思いますが，学生同士の横の繋がりを活用することで，修士課程を限られた期間内で修了すると同時に，充実した大学院生活を送っていただきたいと希望しています。



# 博士後期課程

## 総合社会情報専攻　（3年制）

### 3つの分野

| 分野 | 内容 | |
|---|---|---|
| 国際情報分野 | 本分野では，企業経営，国際経済・政治，地域活性化において必要とされる知識・学問を身に付けることができるように科目が配置されています。これまで取り扱われてきたテーマは社会全般を対象とした包括的なものが多く，グローバル化・情報化が進展する社会環境における諸問題に対処するように，学際的なアプローチを意識した研究が取り組まれています。具体的な研究には，社会問題研究（企業経営・産業振興・地域活性化），国際地域研究（政治・外交・国際関係）などがあります。 | P33 ~35 |
| 文化情報分野 | 本分野では，社会と文化に関わる情報を的確に読み解き，好ましいグローバル・コミュニティの形成とグローバル市民の育成に寄与できる研究者，教育者，専門家を養成します。研究領域は，比較文学，翻訳論，言語教育学（日本語教育他），第二言語習得論，文化人類学（東アジア）等であるが，いずれの領域であっても，学際的，超域的研究が推奨されます。学生と教員は多元的社会と多種多様な文化の理解を深め，文化の翻訳者として，また文化情報の受信・発信者としての能力を高めるべく，協働して研究に取り組みます。 | P35 ~36 |
| 人間科学分野 | 本分野では，人間存在の根本問題への理解と認識を推進することを教育研究の主眼としています。人間存在そのものが置かれている現代的な問題状況に関する学問的探究を学際的な立場から深化・発展させるように研究領域を大別し，人間存在と人間本性の根本的把握という課題に照準して科目配置を行っています。研究内容には，心理学，医療・健康，教育，スポーツ及び哲学があります。 | P36 ~37 |

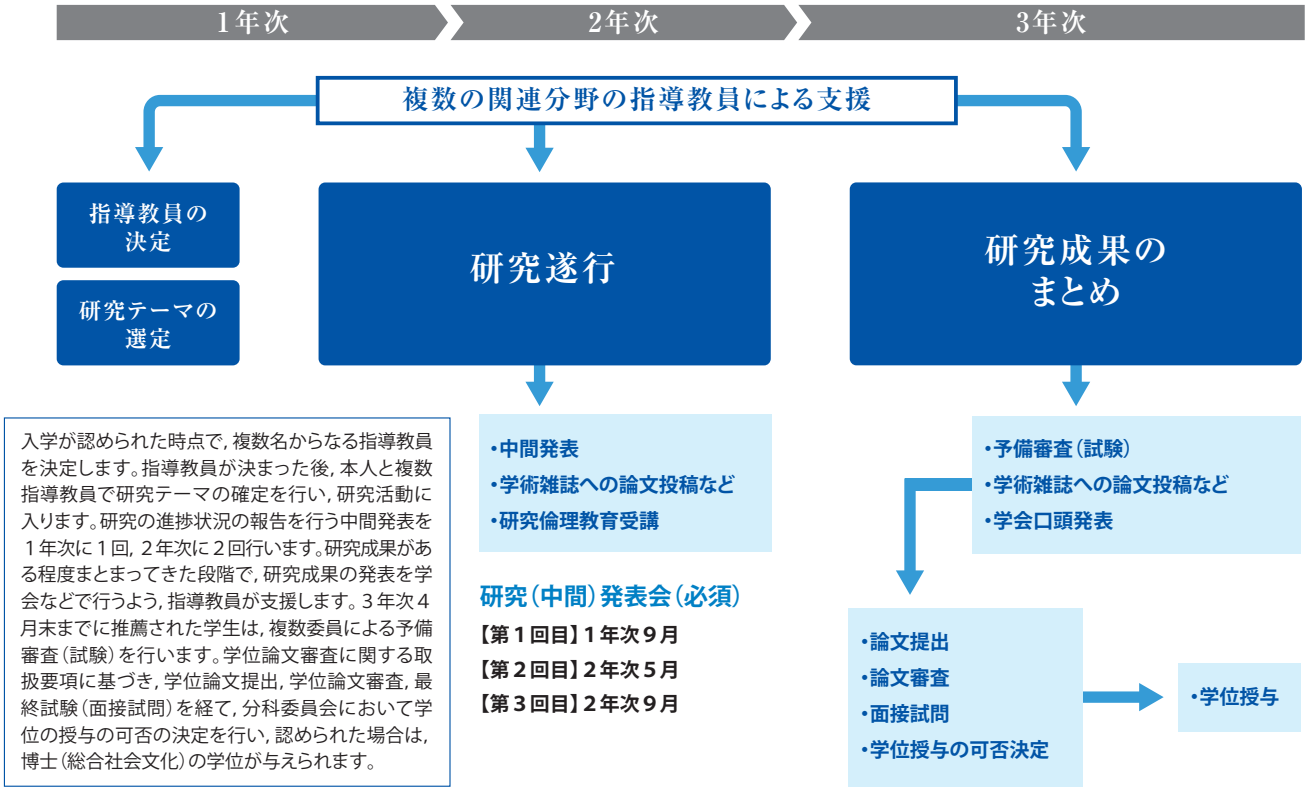
# 学位［博士（総合社会文化）］取得までのスケジュール

## 履修方法

専門分野を含めて12単位（３科目）以上を修得し，特別研究指導を受ける。

## 修了要件

３年以上在学し，必要な単位数の修得と特別研究指導を受け，博士論文の審査及び最終試験に合格すると，
博士の学位（博士（総合社会文化））が与えられる。




# カリキュラム

| 分野 | 授業科目 | 単位数 |
|---|---|---|
| 国際情報分野 | 現代政治学特殊研究 | 4 |
| | 国際法特殊研究 | 4 |
| | 国際政治論特殊研究 | 4 |
| | 危機管理論特殊研究 | 4 |
| | 日本政治史論特殊研究 | 4 |
| | 国際メディア論特殊研究 | 4 |
| | 開発政策論特殊研究 | 4 |
| | 日中比較社会論特殊研究 | 4 |
| | 経済理論特殊研究 | 4 |
| | 国際経済政策論特殊研究 | 4 |
| | 国際経営論特殊研究 | 4 |
| | 流通経営論特殊研究 | 4 |
| | ファミリービジネス論特殊研究 | 4 |

| 分野 | 授業科目 | 単位数 |
|---|---|---|
| 文化情報分野 | 比較文学特殊研究 | 4 |
| | 翻訳論特殊研究 | 4 |
| | 日本文化特殊研究 | 4 |
| | アジア文化特殊研究 | 4 |
| | 言語教育学特殊研究 | 4 |
| | 言語学特殊研究 | 4 |
| | 異文化間コミュニケーション論特殊研究 | 4 |
| | 第二言語習得論特殊研究 | 4 |
| | 言語教育方法論特殊研究 | 4 |

| 分野 | 授業科目 | 単位数 |
|---|---|---|
| 人間科学分野 | 社会哲学特殊研究 | 4 |
| | 宗教哲学特殊研究 | 4 |
| | 生命倫理特殊研究 | 4 |
| | 近現代哲学特殊研究 | 4 |
| | 社会思想史特殊研究 | 4 |
| | 教育思想史特殊研究 | 4 |
| | 臨床心理学特殊研究 | 4 |
| | 産業・組織心理学特殊研究 | 4 |
| | 行動分析学特殊研究 | 4 |
| | 教育学特殊研究 | 4 |
| | 教育認識論特殊研究 | 4 |
| | 健康科学特殊研究 | 4 |

特別研究指導

学位論文

※都合により，担当教員が変更になる場合があります。

国際情報分野

## 井上 葉子 教授
Inoue, Yoko



詳しいプロフィールを見る

**学位**

修士（商学）

**主な職歴**

2001年4月 - 2004年3月　早稲田大学商学部助手
2004年4月 - 2008年3月　日本大学商学部助手
2011年4月 - 2012年8月　ハーバード大学客員研究員
2017年4月 - 2017年9月　カリフォルニア大学バークレー校客員研究員
2008年4月 - 2020年　日本大学商学部准教授
2020年 - 2024年　日本大学商学部教授

**指導・研究における特色，プロフィール**

学生の目標を深く理解して指導すること。

### 担当科目

国際経営論特殊研究，特別研究指導

**主な学術論文**

グローバル・ビジネス・エコシステム（GBE）構築プロセスの研究（単著）商学集志，2021年06月
インバウンド・ツーリズム産業における持続可能なビジネス・エコシステム構築に向けて（共著・筆頭著者）異文化経営研究，2020年12月
ビジネス・エコシステムの理論的考察 ～概念と構造～（単著）商学集志，2019年09月
プレミアムワイン産業とビジネス・エコシステム —ナパバレーのワインビジネスを事例に（単著）商学集志，2019年06月
マルチプラットフォーム企業のビジネス・エコシステム —アリババグループの経営とグローバル化を中心に（単著）商学修志，2019年03月
アジア新興国における物流インフラの整備に関する史的考察～中国物流園区を中心に（単著）商学集志，2013年03月

**主な著書**

インバウンドルネッサンス（共著）日本経済新聞出版，2021年11月
インバウンド・ビジネス戦略（共著）日本経済新聞出版，2019年06月
異文化マネジメントの理論と実践（共著）同文館出版，2017年04月
多国籍企業の変革と伝統（共著）文真堂，2013年05月

国際情報分野

## 加藤 孝治 教授
Kato, Koji



詳しいプロフィールを見る

**学位**

博士（総合社会文化）

**主な職歴**

1988年　日本興業銀行（現みずほ銀行）
2015年　目白大学経営学部教授
2019年　日本大学大学院総合社会情報研究科教授（現職）

**指導・研究における特色，プロフィール**

銀行在籍中に取り組んだ産業調査の経験，企業分析のノウハウに基づき，幅広く業界研究を中心に経営学に関連する研究をサポートします。また，日本のファミリービジネスに着目しており，事業承継の問題について具体的な企業事例を踏まえた研究指導を行います。

### 担当科目

流通経営論特殊研究，特別研究指導

**主な学術論文**

「サッポログループが取り組むバリューチェーン横断型の物流人財育成の成果について」日本物流学会学会誌第34号，87-94頁，2026年
「日本の農林水産物・食品の輸出拡大に対するサプライチェーン上の課題に係る一考察」日本貿易学会研究論文 第12号，99-118頁，2022年
「日本人の食品消費行動の変化と企業行動について—消費者アンケートに基づく一考察」日本大学大学院総合社会情報研究科紀要 第23巻 第3号，131-140頁，2022年
「日本のファミリーガバナンスに関する一考察—ファミリービジネスの事業承継が地域活性化に与える影響—」（共著）日本大学大学院総合社会情報研究科紀要 第22号，25-36頁，2021年
「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略について」2020年度郵便・物流・流通に関する調査研究—調査研究助成論文—，一般財団法人ゆうちょ財団ポスタル部，2021年

**主な著書**

『食品企業 トップが語る経営の羅針盤 企業がのぞむパーパス経営』（共著）日本食糧新聞社，2024年
『ファミリービジネス成功の秘訣 —地域との共存による事業承継—』（共著）中央経済社，2024年（ファミリービジネス学会学会奨励賞受賞）
『食品企業 2030年，その先へ 海外展開なくして成長なし』（共著）日本食糧新聞社，2022年（日本貿易学会奨励賞受賞）
『ファミリーガバナンス—スムーズな事業承継を実現するために—』（共著）中央経済社，2020年（ファミリービジネス学会学会賞受賞）
『これからの銀行論』（共著）中央経済社，2019年

国際情報分野

## 神井 弘之 教授
Kamii, Hiroyuki



詳しいプロフィールを見る

**学位**

博士（学術）

**主な職歴**

農林水産省大臣官房審議官，統計部管理課長，食品製造課長，三重県庁マーケティング室長，政策研究大学院大学特任教授（農業政策コースディレクター）などを経て現職。

**指導・研究における特色，プロフィール**

院生の皆さんが，地に足の着いた問題意識を大切にしながら，学術的な考察を深めていただけるよう，サポートしていきます。私自身が，実務家（行政官）として社会課題解決に向けた研究活動に取り組み，悪戦苦闘して来ましたので，その経験を活かして，院生の皆さんのお役に立てればと考えています。

### 担当科目

現代政治学特殊研究，特別研究指導

**主な学術論文**

「デジタル技術を活用した自然資本マネジメントの転換に向けて」（単著）日本都市計画学会『都市計画』74巻6号，2025年
「DXが拓く日本型直接支払制度の未来:運用革新から政策革新を展望する」（単著）農村計画学会『農村計画学会誌』43巻2号，2024年
「生態系サービス評価に向けたデータ集積と統合化に関する研究」（共著）農業農村工学会誌『水土の知』90巻9号，2022年
「生態系サービス概念による農業・農村政策のリフレーミング」（共著）農業農村工学会誌『水土の知』89巻，2021年
「なぜ今、生態系サービス研究なのか - 「見せる化」で国民起点の農業・農村政策を-」（単著）『農林水産政策研究所レビュー』99号，2021年

**主な著書**

「みどりの食料システム戦略の策定と関連政策へのインパクト」『植物医科学の世界 ： 植物障害の診断を極め、食料・環境の未来を拓く』（共著），大誠社，2026年
「地方創生とファミリービジネス」『ファミリービジネス成功の秘訣： 地域との共存による事業承継』（共著）中央経済社，2025年
「デジタルで進む生態系サービスの「見せる化」」『イノベーションの未来予想図 ー専門家40名が考察する20年後—』（共著）創成社，2021年
『農業経済学事典』（共著）丸善出版，2019年
『食の信頼問題の実践解 -フードシステムにおける協働のデザイン-』（単著）農林統計出版，2016年，（2017年日本フードシステム学会 学会賞（学術賞）受賞）

教員情報は2026年7月のものです。諸事情により，変更が生じる場合があります。
最新の教員情報は本学ホームページ＞教員紹介をご参照ください。

**総合社会情報研究科ホームページ**
**https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/**



国際情報分野

## 瀧川 修吾 教授
Takigawa, Shugo



詳しいプロフィールを見る

**学位**
博士（政治学）

**主な職歴**
日本橋学館大学リベラルアーツ学部（専任講師，准教授），日本大学危機管理学部（准教授）などを経て現職。

**指導・研究における特色，プロフィール**
本研究科での指導・研究は，今年で10年目を迎えました。通信制ですので，基本はオンラインやメールを活用した文書のやり取りや添削指導が中心となりますが，希望者には危機管理学部のゼミ生との交流やビデオ会議による指導の機会なども設けます。やはり研究成果は，様々な人の前で公表した方が楽しいものです。

### 担当科目
日本政治史論特殊研究，特別研究指導

**主な学術論文**
2003年「山田方谷と征韓論」（日本大学大学院『法学研究年報』第32号）
2012年「『江湖（ごうこ）新聞』と福地櫻痴」（日本橋学館大学『紀要』第11号）
2021年「コロナ禍の「政治学」－オンデマンド型講義の実践例と考察－」（『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』No.21）
2024年「日本における国際人流の歴史的考察～幕末編」（『国際人流』NO.417）

**主な著書**
2007年『増訂新版 近代日本政治史Ⅰ 幕末・明治』南窓社（共著）
2014年『征韓論の登場』櫻門書房
2018年『外国人の受入れと日本社会』日本加除出版（共著）
2023年『政治学 第３版』弘文堂（共著）
2023年『歴代自民党総裁のリーダーシップ 第１巻』学文社（共著）
2026年『新・社会福祉士シリーズ18　権利擁護を支える法制度［第2版］』弘文堂（共著）

国際情報分野

## 日吉 秀松 教授
Hiyoshi, Hidematsu



詳しいプロフィールを見る

**学位**
博士（国際関係）

**主な職歴**
日本大学スポーツ科学部　教授などを経て現職。

**指導・研究における特色，プロフィール**
現代中国政治体制の構造を解明するためには，文化大革命（以下は文革と略称）の発生原因や目的を明らかにすることが必要であります。しかし、グローバリゼーションの恩恵をうけて経済発展を遂げた中国では，文革に関する研究は今現在、実質的に禁止されています。こうした背景のもとで、文革研究に携わる場合、その関連資料をしっかりと収集した上研究を進めます。また、国際政治に関する研究においては、リアリズム理論と心理学理論を組み合わせることで国際社会の諸事象を多角的に分析し解明することができ、新たな国際政治理論の確立も不可能ではありません。

### 担当科目
国際政治論特殊研究,特別研究指導

**主な学術論文**
2021年2月　文化大革命期における「一打三反」キャンペーンに関する一考察　『桜文論叢』（日本大学法学部），第103巻，287－300頁（単著）
2020年3月　書評　楊継縄著　辻康吾編　現代中国資料研究会訳　岩波書店『文化大革命50年』『中国研究月報』第74－３号　37－41頁（単著）
2017年9月　1970年における「国家主席」の設置をめぐる議論の本質に関する考察　『研究紀要』（日本大学文理学部），第94号，127－138頁（単著）
2014年12月　改革開放後の権力闘争についての考察　『政経研究』（日本大学法学部），第50－３号，1089－1123頁（単著）
2013年1月　文化大革命期における「二月逆流」関する一考察　『研究紀要』（日本大学文理学部）第85号，71－82頁（単著）

**主な著書**
2026年9月　『海外流出文書から見た現代中国』（共著）中国書店
2019年6月　American Presidential Elections in a Comparative Perspective（共著），Lexington Books
2018年9月　『新編　現代政治過程』（共著）三和書店
2016年10月　『文革50年一毛澤東遺産和当代中国』（共著）明鏡出版社（New York）
2015年2月　『アジアにおける地域協力の可能性』（共著）葦書房

国際情報分野

## 前野 高章 教授
Maeno, Takaaki



詳しいプロフィールを見る

**学位**
博士（経済学）

**主な職歴**
2023年　日本大学通信教育部教授
2023年　日本大学大学院総合社会情報研究科教授

**指導・研究における特色，プロフィール**
「国際貿易は一国の経済を豊かなものにする」という視点のもと，国際貿易と貿易障壁の関係性について研究をしています。特別研究においては，経済活動と非関税措置の関係性を考察することを目的とし，国際的な制度設計が国内市場や海外市場における経済主体に与える影響について実証的・政策的なアプローチから研究に取り組んでいきたいと思います。

### 担当科目
国際経済政策論特殊研究,特別研究指導

**主な学術論文**
2024年　「陸上輸送競争力からみる内陸地域の経済発展に関する一考察　－「新シルクロード」沿線地域における貿易コストの計測－」『紀要』第54号　日本大学経済学部経済科学研究所
2022年　「新疆ウイグル自治区と中央アジア諸国の貿易構造分析」『国際情報研究』第19号　日本国際情報学会
2021年　「メコン圏における中国辺境地域の経済的役割　－広西・雲南の貿易構造分析を中心に－」『経営行動研究年報』第30号　経営行動研究学会
2019年　「財ヴィンテージの貿易に関する研究－非新品貿易財の貿易構造に関する一考察－」『紀要』第49号　日本大学経済学部経済科学研究所
2018年　「清酒製造業の海外市場創出と産業特殊要因に関する研究－ヒアリング調査による清酒製造業の国際化における現状と課題－」『経営行動研究年報』経営行動研究学会 第27号

**主な著書**
2026年　「地政学的リスクとアジアの貿易構造」石川幸一・馬田啓一・清水一史・助川成也　編著『アジア経済入門』文眞堂
2022年　『米国通商政策史』長谷川聰哲（監訳者）、酒井健太郎・前野高章・小森谷徳純・助川成也（訳者）文眞堂
2021年　「激変するグローバル経済におけるアジアの貿易構造」石川幸一・馬田啓一・清水一史編『岐路に立つアジア経済』文眞堂
2017年　「知的財産権保護と技術移転―ASEAN諸国の貿易データを使用した実証分析―」長谷川聰哲編『アジア太平洋地域のメガ市場統合』中央大学出版部（共著）
2014年　「国際制度の標準化と貿易円滑化の促進：MRA協定と貿易コストの関連性」馬田啓一・木村福成編『通商戦略の論点』文眞堂

## 国際情報分野

### 陸 亦群 教授
Riku, Yugun



詳しいプロフィールを見る

**学位**

博士（経済学）

**主な職歴**

日本大学通信教育部（教授）　日本大学経済学部（教授）を経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**

現在の研究は，企業生産活動のグローバル化と地域経済との関連性を念頭に置きつつ，もの作りアーキテクチャのモジュラー化と細分化分業との関わりに焦点を当てている。新しい国際分業関係，すなわち生産工程における細分化分業関係を前提にして，日本には新興諸国との協業関係を意識した新たな成長戦略が求められ，グローバルな視点から地方創生について探究したい。

### 担当科目

国際経済政策論特殊研究，特別研究指導

**主な学術論文**

「国際分業における製品アーキテクチャおよび企業戦略に関する一考察」『研究紀要』日本大学通信教育研究所 第29号 2016年３月
「グローバル化時代の企業戦略展開と政府の役割」『研究紀要』日本大学通信教育研究所 第28号2015年３月
「新興国の都市化とダイナミックキャッチアップ」『研究紀要』日本大学通信教育研究所 第27号 2014年３月
「グローバル・マーケティング戦略と新興国のキャッチアップ」『研究紀要』日本大学通信教育研究所 第26号 2013年３月
「キャッチアップにおける政府の役割と東アジア新興諸国の経験」『研究紀要』日本大学通信教育研究所 第25号 2012年３月
「東アジア新興国の経験の中央アジア経済発展への適用に関する一考察」『日本貿易学会年報』日本貿易学会 第48号（共著）2011年３月

**主な著書**

Tsuji, Tadahiro, Yiliang Wu and Yugun Riku (ed.) (2015), Rebirth of the Silk Road and a New Era for Eurasia, Yachiyo Shuppan.
『産業集積と新しい国際分業－グローバル化が進む中国経済の新たな分析視点－』文眞堂（共著）2007年３月

## 文化情報分野

### 島田 めぐみ 教授
Shimada, Megumi



詳しいプロフィールを見る

**学位**

博士（心理学）

**主な職歴**

東京学芸大学（教授）を経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**

学習者主体の教育へのシフト、学習者の多様化、社会のグローバル化などにより、日本語教育のあり方も変容しつつあります。その中で、広い視野に立ち研究を行う能力を重視します。まずは、先行研究を徹底的に分析し、それにより、自身の研究の位置づけと意義を明確に設定することから始めます。

### 担当科目

流通経営論特殊研究，特別研究指導

**主な学術論文**

「オンラインスピーキングテストに関するスコーピングレビュー―日英両言語テストの研究動向―」『東アジア日本語教育・日本文化研究』29, 9-30, 2026年（共著）
「日本語聴解テストにおける選択枝の有無が結果に与える影響」『日本語教育』191, 110-117, 2025年（共著）
「「日本語教育参照枠」における評価―理念と現実の狭間で―」『日本語学』44（3），明治書院, 38-47, 2025年（単著）
「日本語聴解オンラインテストにおける選択枝のモードと提示タイミングの影響―国外で学ぶ初級学習者を対象に―」『日本語教育』188, 31-43, 2024年（共著）
「日本語教育におけるCEFRの適用を考える―漢字の扱いを中心に―」『第二言語としての日本語の習得研究』25, 84-101, 2022年（単著）
「日本語聴解認知診断テストの開発を目指したアトリビュートとテストの分析」『日本言語テスト学会誌』23, 37-56, 2020年（共著）
「ハワイにおける借用語*habut*-の使用実態について―ハッシュタグ検索を用いて―」『学芸国語国文学』50, 1（294）-10（284），2018年（単著）
「日本語聴解テストにおいて難易度に影響を与える要因」『日本語教育』129, 1-10, 2006年（単著）

**主な著書**

『統計で転ばぬ先の杖』ひつじ書房, 2021年（共著）
『新 日本語教育を学ぶ―なぜ，なにを，どう教えるか―』三修社, 2020年（共著）

## 文化情報分野

### 清水 享 教授
Shimizu, Toru



詳しいプロフィールを見る

**学位**

博士（文学）

**主な職歴**

日本大学，明治大学，法政大学，東京学芸大学，東京農業大学，実践女子大学（兼任，非常勤講師），東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（共同研究員），国立民族博物館（共同研究員）などを経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**

東アジアにおける民族の文化，社会，歴史の研究を歴史学と文化人類学から進めます。東アジアの多様な文化，社会，歴史を多角的に把握することを目指します。また文化，社会の背景にある経済史や生態環境史の視点から立体的な研究を進めます。

### 担当科目

流通経営論特殊研究，特別研究指導

**主な学術論文**

「関與雲南省南部生態環境碑刻」『明清以来雲貴高原的環境與社会』（154-182p）　楊偉兵編　2010年6月 上海東方出版中心　（単著）
「近代から現代における彝族社会の変化と文化変容についての総合研究　- 涼山彝族を中心として - 」　2014年3月　日本大学博士学位論文
「町に出るピモ　－県城におけるピモ（彝族祭司）の活動－」『中国の社会変化と再構築　グローカライゼーションの視点から』韓敏編　2015年3月　風響社　（単著）
「彝語・彝文の辞書について」『アジア遊学231　中国雲南の書承文化』2019年3月　勉誠出版（単著）
「涼山彝族土司嶺光電の教育活動」『史叢』第104号　2021年12月　日本大学史学会（単著）
「博多祇園山笠に関する著作について」（前，後編）『スポーツ科学研究』第7集　2023年3月　日本大学スポーツ科学部スポーツ科学研究所（単著）
「彝族の諺である「ルビ」収集資料について」『スポーツ科学研究』第8集　2024年3月　日本大学スポーツ科学部スポーツ科学研究所（単著）

**主な著書**

An Illustrated Eco-History of the Mekong Basin, Akimiti,Tomoya (ed.),WhiteLotus,Jul,2008（共著）
『雲南西部少数民族古文書碑文集』唐立編　2011年3月　東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（共著）
『台湾中央研究院傅斯年図書館蔵彝文（儸儸文）文書解題』　清水享編　2012年3月　東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（共著），他

教員情報は2026年7月のものです。諸事情により，変更が生じる場合があります。
最新の教員情報は本学ホームページ＞教員紹介をご参照ください。

**総合社会情報研究科ホームページ**
**https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/**



## 文化情報分野

### 秋草 俊一郎 准教授
Akikusa, Shun'ichiro



詳しいプロフィールを見る

**学位**
博士（文学）

**主な職歴**
日本学術振興会（特別研究員），ハーバード大学（客員研究員），東京大学教養学部（専任講師）などを経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**
20世紀以降の日本およびロシア・欧米の言語文化研究をひろくおこなう。その際，世界文学や翻訳理論における近年の議論を紹介する。フランコ・モレッティやデイヴィッド・ダムロッシュの世界文学への近年の取り組みをときに講師自身の翻訳で紹介しながら，背景となった現代の文化状況について理解をうながしたい。

**担当科目**
比較文学特殊研究，翻訳論特殊研究，特別研究指導

**主な学術論文**
『ナボコフ　訳すのは「私」――自己翻訳がひらくテクスト』東京大学出版会，2011年（単著）
『アメリカのナボコフ――塗りかえられた自画像』慶應義塾大学出版会，2018年（単著）
『「世界文学」はつくられる　1827－2020』東京大学出版会，2020年（単著）

**主な著書**
シギズムンド・クルジジャノフスキイ『未来の回想』松籟社，2013年
ドミトリイ・バーキン『出身国』群像社，2015年
フランコ・モレッティ『遠読　＜世界文学システム＞への挑戦』みすず書房，2016年（共訳）
エミリー・アプター『翻訳地帯　新しい人文学の批評パラダイムにむけて』慶應義塾大学出版会，2018年（共訳）
アレクサンダル・ヘモン『私の人生の本』松籟社，2021年
ローレンス・ヴェヌティ『翻訳のスキャンダル　差異の倫理にむけて』フィルムアート社，2022年（共訳）
シャオルー・マー『仲介する日本　ロシアから中国への文化横断とリレー翻訳』文学通信，2025年（共訳）

## 人間科学分野

### 岡山 敬二 教授
Okayama, Keiji



詳しいプロフィールを見る

**学位**
博士（哲学）

**主な職歴**
中央大学文学部（非常勤講師），中央大学理工学部（非常勤講師），日本大学法学部（教授）などを経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**
現象学とよばれる哲学のなかでも，フッサールの他者論をテーマにしてきました。ここしばらくは，ハイデガーの存在論を手がかりに，人間論と存在論とを両軸のテーマに考えています。何がどこまでわかり，どこからわからないのか，それをごまかさずに自覚・整理し，理をもって伝えることを大切にしながら，研究，指導を進めていきたいと思っています。

**担当科目**
近現代哲学特殊研究，特別研究指導

**主な学術論文**
2025年「良心の呼び声はどこからやって来るのか　―ハイデガーの良心論と「技術への問い」―」『桜文論叢』日本大学法学部，第111巻，332（一）- 298（三五）
2025年「歴史から芸術、そして存在へ　―ハイデガー『存在と時間』から『芸術作品の根源』へ―」『桜文論叢』日本大学法学部，第112巻，126（一）-92（三五）
2019年「人間への問いと思索の祝祭　―ハイデガー『芸術作品の根源』の根源をさぐって―」『桜文論叢』日本大学法学部，第99巻，112（七七）-77（一一二）
2018年「「もっとも不気味なもの」としての人間に向けて　―存在と無のはざまで―」『桜文論叢』日本大学法学部，第97巻，266（一）-236（三一）
2018年「技術と存在―ハイデガー「技術への問い」を問う―」『桜文論叢』日本大学法学部，第96巻，668-638
2014年「「肉」から他者へ―メルロ＝ポンティからフッサールへ―」『桜文論叢』日本大学法学部，第87巻，244-215
2013年「心身問題を蒸し返す」『人文研紀要』中央大学人文科学研究所，第77号，199-230

**主な著書**
2022年『わからなさを生きる哲学』亜紀書房
2014年『人間が人間でなくなるとき――フッサールの影を追え、とメルロ＝ポンティは言った』亜紀書房
2008年『フッサール 傍観者の十字路』白水社

## 人間科学分野

### 北村 世都 教授
Kitamura, Setsu



詳しいプロフィールを見る

**学位**
博士（心理学）

**主な職歴**
日本学術振興会特別研究員，日本大学文理学部心理学科助教　聖徳大学心理・福祉学部心理学科准教授，教授を経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**
私の研究テーマの１つである認知症やその家族への支援は，一見，心理学とは結び付かないかもしれません。しかし認知機能に障害を持つ高齢者を我々がどのように理解するのか，彼らを社会的に排除してきた歴史には人のどのような心理に基づいたものなのかを検討することは，社会的にも意義のある心理学的研究テーマです。同様に，学生の興味を学術研究に昇華できるよう，対話やディスカッションを通して指導します。

**担当科目**
臨床心理学特殊研究，特別研究指導

**主な学術論文**
北村世都（2026）　高齢期の心理療法の現在地と展望 家族介護者・ケア専門職に対する心理支援-高齢者ケアの担い手のメンタルヘルスを支える-.　老年精神医学雑誌37（1），55-64.
北村世都（2024）独居認知症高齢者の心理支援. 臨床老年看護,31（5）,36-47,
北村世都（2020）【初期における認知症の人の支援 地域社会での実践から】認知症最初期からの地域での家族支援 家族の生き方を支援する試み. 日本認知症ケア学会誌,18（4）,768- 775.
北村世都（2016）　管理職が行うべき高齢者ケア従事者の支援－人材育成と組織づくり.　地域リハビリテーション,11（10）,646-650.
北村世都（2015）　老年臨床心理学からみた認知症の人とのコミュニケーション.　日本認知症ケア学会誌,14（2）,457-463.
北村世都（2014）認知症の妻を介護する男性家族介護者への援助事例―介護者の「人生の統合」の発達課題をめぐる臨床心理学的援助―. 認知症ケア事例ジャーナル,7（2）,121-130.
北村世都（2014）　介護福祉施設における認知症ケアのスーパービジョン―スタッフに求められるスーパービジョンの展開を目指して―. 認知症ケア事例ジャーナル,7（1）,72-81.

**主な著書**
『老年臨床心理学ハンドブック』（共著）福村出版　2025年
『医療現場の共感力』（共著）金芳堂 2023年
『認知症の人の主観に迫る：真のパーソン・センタード・ケアを目指して』（共著）協同医書出版 2020年

人間科学分野

## 釋 文雄 教授
Shaku, Fumio



詳しいプロフィールを見る

**学位**

博士（医学）

**主な職歴**

日本大学附属板橋病院心療内科，国立精神神経センター国府台病院心療内科，旭川医科大学第3内科（消化器内科），名古屋大学総合診療科，筑波大学総合診療科，厚生省保険局，ミシガン州立大学家庭医療科

**指導・研究における特色，プロフィール**

臨床経験をベースとした心身医学，行動科学，さらにはヒトに関する生物学的・社会的側面からの研究・指導をおこないます。コミュニケーションをできるだけ取りながら研究を進めていくことで，新たな気づきや整理のできることが多くあり，ディスカッションも行いつつ指導を行うことを特色とします。

### 担当科目

健康科学特殊研究，特別研究指導

**主な学術論文**

Mental Health and Psychosomatic Medicine Correlations: Exploring Age-Sex Variations in a Cross-Sectional Study. International Journal of Psychology and Psychological Therapy. 2025年
「地域医療実習に参加した医学生による全人的医療の重要性への気づき」『心身医学』 2024年
Mental Health Status before and during the COVID-19 Pandemic in Patients First Visiting a Psychosomatic Internal Medicine Clinic in Tokyo, Japan. International Journal of Environmental Research and Public Health 2022年
Factors associated with surrogate families' life-sustaining treatment preferences for patients at home or in a geriatric health service facility: A cross-sectional study. Cambridge University Press. 2021年
Characterizing end-of-life decision-making of life-sustaining treatment among Japanese nurses. International Journal of Palliative Nursing. 2021年
Factors Relating to Caregivers' Preference for Advance Care Planning of Patients in Japan: A Cross-Sectional Study. Am J Hosp Palliat Care. 2019年
The Effect of Providing Life Support on Nurses' Decision Making Regarding Life Support for Themselves and Family Members in Japan. Am J Hosp Palliat Care 2016年
Self-care behavior when suffering from the common cold and health-related quality of life in individuals attending an annual checkup in Japan: a cross-sectional study. BMC Fam Pract. 2015年
Measuring the Effects of Zen Training on Quality of Life and Mental Health Among Japanese Monk Trainees: A Cross-Sectional Study. Journal of Alternative and Complementary Medicine 2014年

**主な著書**

『わたしを「書いて」取り戻す ―「謎の不調」から自分を救う本―』 2026年

人間科学分野

## 田中 謙 教授
Tanaka, Ken



詳しいプロフィールを見る

**学位**

博士（教育学）
博士（学術）

**主な職歴**

山梨県立大学人間福祉学部（講師・准教授）を経て現職

**指導・研究における特色，プロフィール**

広く子どもに関する研究テーマに対して，教育学，社会福祉学の双方向からアプローチする学際的研究を試みてきました。学際的研究の難しさを日々感じながらも，この視座に基づくことで初めて把握することができる社会課題の構造を明らかにする作業に楽しさも感じています。

### 担当科目

教育思想史特殊研究，特別研究指導

**主な学術論文**

田中謙（2025）「『通級による指導』と特別ニーズ教育の30年―『制度化』『インクルーシブ教育』『通級制』の3つの視座から―」日本特別ニーズ教育学会『SNEジャーナル』編集委員会編『SNEジャーナル』31（1），26-39.
田中謙（2025）「幼児教育・保育における環境としての社会資源開発に関する視座の提示―『まちづくり』に焦点をあてて―」日本子ども社会学会『子ども社会研究』31，17-29.
田中謙（2025）「言語障害児支援における広域行政による政策過程の特質―『西十勝ことばの教室』開設の事例検討を中心に―」日本教育福祉学会『人間教育と福祉』14，1-11.
田中謙（2024）「幼児ことばの教室整備における専門職集団の果たした役割と意義―北海道言語障害児教育研究協議会および『北海道言語障害児教育研究協議会幼児問題調査検討委員会』の事例分析―」日本保育学会『保育学研究』62（3），105-116.
田中謙（2024）「地方小規模基礎自治体におけることばの教室開設に係る政策学習の特質―『知識の政治』枠組みによる北海道河西郡芽室町の事例分析―」コミュニティ政策学会『コミュニティ政策』22，157-176.
田中謙（2024）「『西紋地区ことばの教室』開設における福祉行政および教育行政の政策過程の特質―広域行政におけるイシューネットワークの視座から―」日本医療福祉政策学会『医療福祉政策研究』7（1），33-53.

**主な著書**

田中謙（2026）『日本における言語障害児支援に関する歴史的研究―北海道におけることばの教室の展開過程と原動力としての支援者養成―』風間書房.
田中謙（2025）『特別支援学校におけるカリキュラムマネジメントに関する基礎的研究―現状分析に基づく今後の展望―』三恵社.
中西郁・小川貴代子監修大井靖・岡本明博・田中謙編（2025）『感性を働かせ協同するインクルーシブ保育』ジアース教育新社.
田中謙・小川英彦編（2024）『ダイバーシティ・インクルージョン保育を進めるための園経営ガイドブック』三学出版.

教員情報は2026年7月のものです。諸事情により，変更が生じる場合があります。
最新の教員情報は本学ホームページ＞教員紹介をご参照ください。

**総合社会情報研究科ホームページ**
**https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/**

## 博士後期課程の学修アドバイス

## 釋 文雄 教授

### 通信制大学院で「博士」を取得するためには



最近は日本でも「博士」（ドクター）という称号の有無が仕事を行う際に大きな違いを生むことがあります。当大学院は通信制で学位取得が可能なので，仕事で忙しい皆さんにとってはチャンスです。
でも，もし当大学院の博士後期課程に入学されたら，ボヤボヤしてはいられません。2年半後の学位論文の提出が皆さんの「ミッション」だからです。
博士論文に必要なのは独創性（オリジナリティー）なのですが，そのためにまず自分が目指している研究課題はこれまでにどんな研究がなされてきたかを徹底的に文献研究しましょう。「自分の着想こそユニークだ」と思っていたら，実はすでにその着想は２年前に某国の学会誌に掲載されていた，なんてことになったら，取り返しがつきません。
それから，自分の研究を学術雑誌に掲載するべく積極的に投稿しましょう。その理由は，まずそれが博士論文を執筆するための必要条件だからで，もう一つは，自分の論文を学術団体である専門学会に審査してもらうことによって研究内容をより深化させ，学術的な「お墨付き」を得られるからです。
こうした地道な努力の積み重ねが，3年後の学位取得へ導くでしょう。

# 入学試験・学費概要 博士前期課程

## 入学試験

### 試験日程

| | 試験日 | 事前相談 | 出願期間 | 合格発表 | 入学手続期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第1期試験 | 令和8年<br>11月7日(土) | ～令和8年<br>10月21日(水) | 令和8年10月15日(木)<br>～10月28日(水)〈必着〉 | 令和8年<br>11月18日(水) 15時 | 令和8年11月18日(水)<br>～11月30日(月) |
| 第2期試験 | 令和9年<br>2月7日(日) | ～令和9年<br>1月22日(金) | 令和9年1月14日(木)<br>～1月27日(水)〈必着〉 | 令和9年<br>2月17日(水) 15時 | 令和9年2月17日(水)<br>～2月26日(金) |
| 第3期試験 | 令和9年<br>3月6日(土) | ～令和9年<br>2月17日(水) | 令和9年2月18日(木)<br>～2月24日(水)〈必着〉 | 令和9年<br>3月12日(金) 15時 | 令和9年3月12日(金)<br>～3月19日(金) |

### 試験科目

①小論文

②口述試験

### 合否判定の基準及び方法

小論文及び口述試験に，それぞれ合格最低基準を定める。

小論文及び口述試験の結果を総合的に評価して，合否判定を行う。

※本研究科に入学を志願する方で障がい等があり，入学試験における受験上の配慮を必要とする場合は，各入学試験日の2か月前までに，教務課までご相談ください。(裏表紙参照)

## 学費

単位:円

| 項目 | 令和9年度(1年次) | | 令和10年度(2年次) |
|---|---|---|---|
| | 入学手続時の納入金額 | 2回目(9月) | 2年次の納入金額 |
| 入学金 | ① 200,000 | ―― | ―― |
| 授業料 | 322,500 | 322,500 | ② 645,000 |
| 施設設備資金 | 75,000 | 75,000 | ② 150,000 |
| 小計 | 597,500 | 397,500 | 795,000 |
| 校友会費(準会員) | 10,000 | ―― | 10,000 |
| 校友会費 | ―― | ―― | 10,000 |
| 年間合計 | 1,005,000 | | 815,000 |

①日本大学の卒業者(本研究科修了者を含む)は入学金が免除。　②2年次以降の納入金は2回(4月・9月)に分納。
※授業料・施設設備資金には，スクーリング受講料等を含みます。

## 各種奨学金

### 本学独自の奨学金制度

**本学では，学業成績・人物ともに優秀な2学年以上の学生を対象に，以下の奨学金制度を設けています。**

○日本大学古田奨学金(給付)　○日本大学ロバート・F・ケネディ奨学金(給付)　○日本大学大学院総合社会情報研究科坂東奨学金(給付)

### その他　学外奨学金

○日本学生支援機構奨学金(貸与)　○地方公共団体・民間団体の奨学金　等

## 長期履修学生制度

**職業を有している等の事情により，学修時間の確保が困難である学生のために，**
**長期履修学生制度を導入しました。これにより，個人の事情に応じて学修計画に合わせた履修が可能となります。**

**対象者**

職業を有し，標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修し修了することを希望する学生を対象とします。

**修業年限**

標準２年の修業年限を３年とします。なお，在籍期間は４年を超えることはできません。

**学 費**

長期履修学生として認められた場合の授業料等の納付については，
標準修業年限で納付する総額を上記修業年限で納付することとする。

**《長期履修学生授業料等納付金　博士前期課程》**

単位:円

| 在学年数 | 項目 | １年目 | | 2年目 | | 3年目 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | |
| ３年 | 授業料 | 322,500 | 107,500 | 215,000 | 215,000 | 215,000 | 215,000 | 1,290,000 |
| | 施設設備資金 | 75,000 | 25,000 | 50,000 | 50,000 | 50,000 | 50,000 | 300,000 |
| | 校友会費（準会員） | 10,000 | — | 10,000 | — | 10,000 | — | 30,000 |
| | 校友会費（正会員） | — | — | — | — | — | 10,000 | 10,000 |
| | 小計 | 407,500 | 132,500 | 275,000 | 265,000 | 275,000 | 275,000 | 1,630,000 |
| | 入学金 | 200,000 | — | — | — | — | — | 200,000 |
| | 合計 | 607,500 | 132,500 | 275,000 | 265,000 | 275,000 | 275,000 | 1,830,000 |

※日本大学の卒業者（本研究科修了者含む）は入学金が免除。

**履修上限**

１年間に16 単位まで（特別研究を含めない）

**特別研究**

１年次～３年次に各２単位相当分

**論文題目の届出**

３年次の６月末日

**論文の提出**

面接試問終了後

**奨学金**

長期履修学生も奨学金（※古田奨学金，ロバート・F・ケネディ奨学金，坂東奨学金）の対象になります。

**申請要領**

（1）提出資料 ① 長期履修学生制度申請書（原本） ※捺印必須 ② 在職証明書（原本）
（2）提 出 先 日本大学通信教育部教務課
（3）提出期間 開講式から起算して概ね10日後を締切日とする。
（4）履修計画 開講式時に指導教員と履修計画含めて相談すること

**長期履修学生の取消し**

長期履修学生として許可された者から，相当の理由を記載した願い出があった場合には，入学初年度２月末日までに取り消しを願い出し，３月開催の本研究科分科委員会の議を経て，長期履修学生を１度だけ取り消すことができる。取消しが認められた場合は２年次に２年目・３年目の授業料等を納付することとする。

# 入学試験・学費概要 博士後期課程

## 入学試験

### 試験日程

| | 試験日 | 事前相談 | 出願期間 | 合格発表 | 入学手続期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第1期試験 | 令和9年<br>2月20日(土) | ～令和9年<br>2月3日(水) | 令和9年1月28日(木)<br>～2月9日(火)〈必着〉 | 令和9年<br>3月2日(火) 15時 | 令和9年3月2日(火)<br>～3月12日(金) |

### 試験科目

①英語　(英和辞典使用可, 電子辞書は使用不可)

②小論文

③口述試験

### 合否判定の基準及び方法

英語, 小論文及び口述試験に, それぞれ合格最低基準を定める。

英語, 小論文及び口述試験の結果を総合的に評価して, 合否判定を行う。

※本研究科に入学を志願する方で障がい等があり, 入学試験における受験上の配慮を必要とする場合は, 入学試験日の2か月前までに, 教務課大学院係までご相談ください。(裏表紙参照)

## 学費

単位:円

| 項目 | 令和9年度(1年次) | | 令和10年度(2年次) | 令和11年度(3年次) |
|---|---|---|---|---|
| | 入学手続時の納入金額 | 2回目(9月) | 2年次の納入金額 | 3年次の納入金額 |
| 入学金 | ① 200,000 | ――― | ――― | ――― |
| 授業料 | 300,000 | 300,000 | ② 600,000 | ② 600,000 |
| 施設設備資金 | 75,000 | 75,000 | ② 150,000 | ② 150,000 |
| 小計 | 575,000 | 375,000 | 750,000 | 750,000 |
| 校友会費(準会員) | 10,000 | ――― | 10,000 | 10,000 |
| 校友会費 | ――― | ――― | ――― | 10,000 |
| 年間合計 | 960,000 | | 760,000 | 770,000 |

①日本大学の卒業者(本研究科修了者を含む)の入学金は免除。　②2・3年次の納入金は2回(4月・9月)に分納。
※授業料・施設設備資金には, スクーリング受講料等を含みます。

## 各種奨学金

### 本学独自の奨学金制度

**本学では, 学業成績・人物ともに優秀な2学年以上の学生を対象に, 以下の奨学金制度を設けています。**

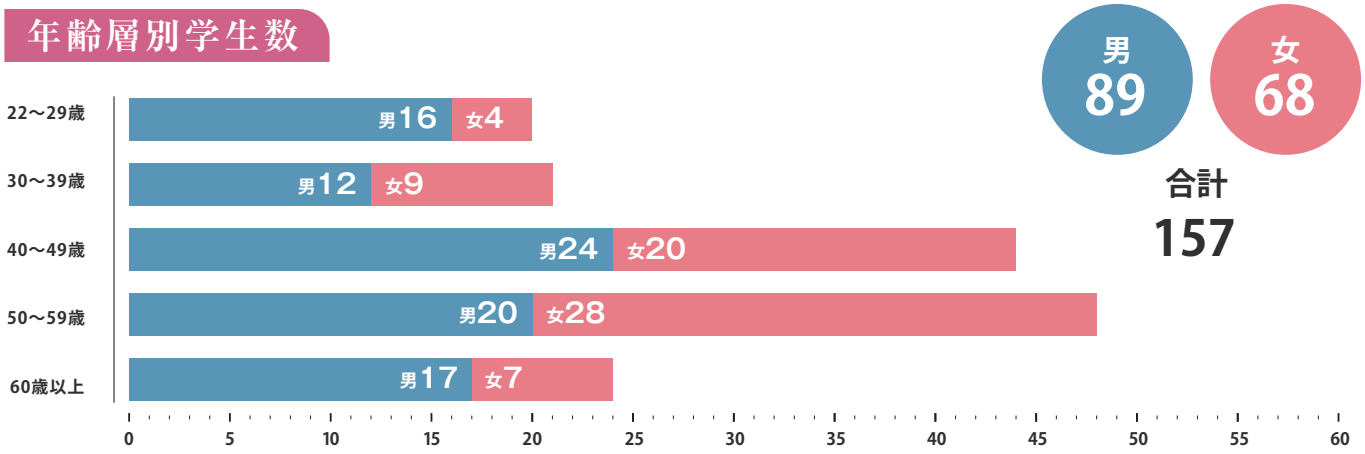
○日本大学古田奨学金(給付)　○日本大学ロバート・F・ケネディ奨学金(給付)　○日本大学大学院総合社会情報研究科坂東奨学金(給付)

### その他　学外奨学金

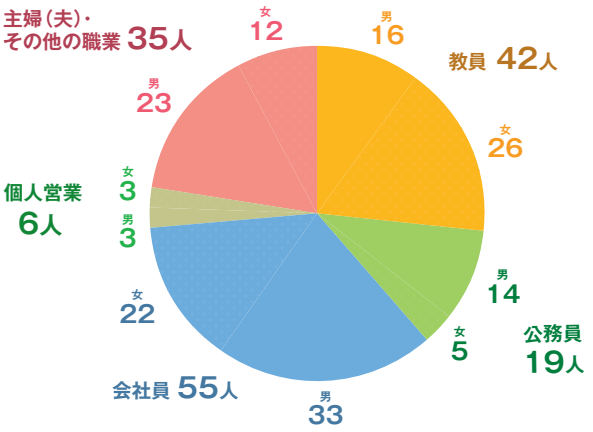
○日本学生支援機構奨学金(貸与)　○地方公共団体・民間団体の奨学金　等

# 学生データ

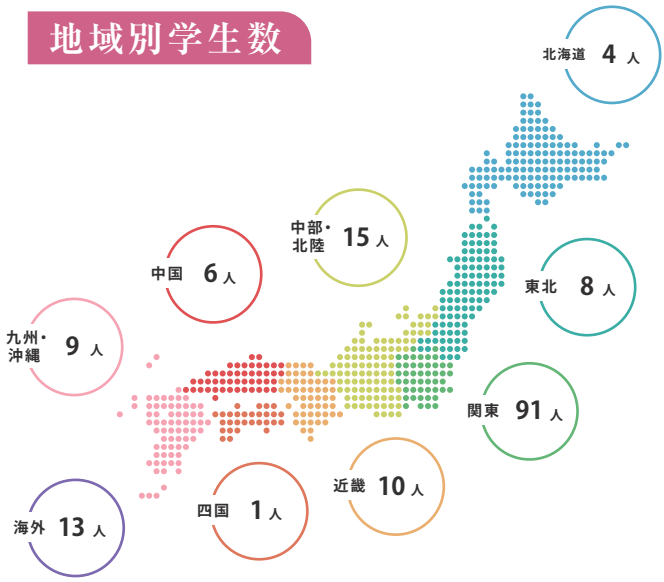
## 年齢層別学生数




## 職業別学生数




## 地域別学生数




## 総合社会情報研究科 修了者数

単位：人

| | R3年度<br>修了者数 | R4年度<br>修了者数 | R5年度<br>修了者数 | R6年度<br>修了者数 | R7年度<br>修了者数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 国際情報 | 12 | 10 | 8 | 16 | 12 |
| 文化情報 | 10 | 15 | 18 | 14 | 11 |
| 人間科学 | 18 | 23 | 30 | 29 | 18 |
| 合計 | 40 | 48 | 56 | 59 | 41 |

※過去5年間の平均修了率80.4%（ただし長期履修学生は除く）

## 入試状況

単位：人

| | | R4年 | R5年 | R6年 | R7年 | R8年 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 国際情報 | 受験者 | 19 | 20 | 18 | 17 | 15 |
| | 入学者 | 11 | 20 | 15 | 17 | 14 |
| 文化情報 | 受験者 | 30 | 15 | 14 | 22 | 20 |
| | 入学者 | 22 | 15 | 11 | 16 | 19 |
| 人間科学 | 受験者 | 35 | 31 | 24 | 22 | 27 |
| | 入学者 | 34 | 30 | 24 | 14 | 23 |
| 合計 | 受験者 | 84 | 66 | 56 | 61 | 62 |
| | 入学者 | 67 | 65 | 50 | 47 | 56 |

※募集定員は各専攻30名　合計90名

# キャンパス・学修環境

## 相談・対面指導・スクーリングを行うのは，東京・市ヶ谷のアクセス便利なキャンパス

通信制大学院でありながら個別指導が充実している総合社会情報研究科。
日本大学通信教育部と共用のキャンパスはいずれもJR市ヶ谷駅から徒歩4分以内とアクセスに便利な立地です。




**日本大学通信教育部3号館**
教員の研究室があるメインキャンパス。



**研究室**
特別研究（ゼミ）が行われる教員の研究室。
事前予約の上，対面指導を受けることができます。



**日本大学通信教育部1号館**
JR市ヶ谷駅から徒歩3分の1号館は，
入学後の相談場所として使用されています。

## 会社帰りや休日にも利用可能な日本大学図書館はWi-Fi完備，最大22時まで開館



入学後は日本大学の図書館を利用することができます。
自習スペースもあるので，会社帰りなどに自宅以外の場所で勉強することも可能です。

| 図書館 | 最寄駅 |
|---|---|
| 法学部分館 | 水道橋駅（東京） |
| 文理学部分館 | 桜上水駅（東京） |
| 経済学部分館 | 水道橋駅（東京） |
| 商学部分館 | 祖師ヶ谷大蔵駅（東京） |
| 芸術学部分館 | 江古田駅（東京） |
| 国際関係学部分館 | 三島駅（静岡） |

| 図書館 | 最寄駅 |
|---|---|
| 三軒茶屋キャンパス分館 | 三軒茶屋駅（東京） |
| 理工学部（駿河台校舎）分館 | 御茶ノ水駅（東京） |
| 理工学部（船橋校舎）分館 | 船橋日大前駅（千葉） |
| 生産工学部（津田沼校舎）分館 | 京成大久保駅（千葉） |
| 生産工学部（実籾校舎）分館 | 実籾駅（千葉） |
| 工学部分館 | 安積永盛駅（福島） |

| 図書館 | 最寄駅 |
|---|---|
| 医学部分館 | 大山駅（東京） |
| 歯学部分館 | 御茶ノ水駅（東京） |
| 松戸歯学部分館 | 松戸駅（千葉） |
| 生物資源科学部分館 | 六会日大前駅（神奈川） |
| 薬学部分館 | 船橋日大前駅（千葉） |
| | |

# 日本大学教育憲章

## 日本大学教育憲章とは

日本大学では「日本大学教育憲章」を制定し,
具体性のある指標のもと教育を展開することで, 学生の学修成果の実質化を目指していきます。
(平成29年4月1日施行)

## 日本大学教育憲章の内容

日本大学は, 本学の「目的及び使命」を理解し, 本学の教育理念である「自主創造」を構成する
「自ら学ぶ」,「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ,「日本大学マインド」を有する者を育成する。

### 日本大学マインド

**日本の特質を理解し伝える力**
日本文化に基づく日本人の気質, 感性及び価値観を身につけ, その特質を自ら発信することができる。

**多様な価値を受容し, 自己の立場・役割を認識する力**
異文化及び異分野の多様な価値を受容し, 地域社会, 日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し, 説明することができる。

**社会に貢献する姿勢**
社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

### 「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

#### 自ら学ぶ

**豊かな知識・教養に基づく高い倫理観**
豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。

**世界の現状を理解し, 説明する力**
世界情勢を理解し, 国際社会が直面している問題を説明することができる。

#### 自ら考える

**論理的・批判的思考力**
得られる情報を基に論理的な思考,
批判的な思考をすることができる。

**問題発見・解決力**
事象を注意深く観察して問題を発見し, 解決策を提案することができる。

#### 自ら道をひらく

**挑戦力**
あきらめない気持ちで新しいことに
果敢に挑戦することができる。

**コミュニケーション力**
他者の意見を聴いて理解し, 自分の考えを伝えることができる。

**リーダーシップ・協働力**
集団のなかで連携しながら, 協働者の力を引き出し,
その活躍を支援することができる。

**省察力**
謙虚に自己を見つめ, 振り返りを通じて自己を高めることができる。

# 3つのポリシー

## 博士前期課程

### ディプロマ・ポリシー

「現代社会の種々の活動領域で，高度な専門的かつ総合的な認識力・判断力をもってそれぞれの専門分野で指導的立場に立つ職業人の養成及び既成の枠を超えて諸科学間の有機的な関連を獲得できる独創的な学問研究者の育成を目指す」という総合社会情報研究科の教育目的完遂のために，総合社会情報専攻（博士前期課程）においては，国際情報分野，文化情報分野，人間科学分野の3つの分野において，それぞれ以下のような知見と能力の修得を単位修得及び修士論文によって例証した者に，以下のとおり修士学位を授与する。

修士（総合社会文化）：国際情報分野，文化情報分野，人間科学分野（哲学領域，心理学領域，教育学領域）修了者
修士（人間科学）：人間科学分野（健康・スポーツ科学領域）修了者
なお，研究者にあっては，学際的な観点から顕在あるいは潜在している課題を発見し，論理的に仮説を構築し検証を行う自律的研究遂行能力を修得していることが求められる。
実務家においては，それぞれの職場において顕在あるいは潜在している問題を発見して論理的な解決案を提案する問題解決力，及び解決案を実現するリーダーシップ力とコミュニケーション能力が求められる。
上記の内容を満たすために，それぞれの分野において求められる資質・能力は以下のとおり。

**国際情報分野**
国際情勢の帰趨と世界と日本の在り方に対する広い視野と鋭敏な感覚を持ち，経済・経営領域及び国際・政治領域で，指導的かつ先端的な役割を担い，国際化・グローバル化の現代的課題に自主的に取り組むことができる資質・能力

**文化情報分野**
多文化多言語社会の中で，文化・文学領域及び言語学領域において，多様な価値を受容し，相互理解を深めながら，地球市民として実務的・専門的立場からグローバル・コミュニティの構築に寄与する資質・能力

**人間科学分野**
哲学，心理学，教育学に亘る諸領域において，現代社会の根本的なニーズに対応し，人間存在の基本問題について，十全の認識・洞察を持って，問題解決に取り組むことができる資質・能力
健康・スポーツ科学領域において，人間存在の基本問題について，十全の認識・洞察を持って，問題解決に取り組むことができる資質・能力

上記の資質・能力を身に付けたかどうかについては，以下の学修成果により判断する。
①科目履修については，以下の内訳にて24単位以上を修得
（1）必修科目（研究法入門1，研究法入門2）計4単位
（2）専門科目は，コア科目（12単位以上），選択科目（8単位以上）の修得
②特別研究は，必要な研究指導を受け，以下の項目からなる修士論文の審査の合格によって，必修単位（6単位）を修得
（1）研究目的，理論，研究方法，情報収集・処理の妥当性
（2）論旨の明確性及び独創性
（3）論文の統合性及び論証の一貫性
（4）研究成果の有意義性
（5）構成，形式，表現，表記の適切性
③面接試験による最終試験に合格

### カリキュラム・ポリシー

「現代社会の種々の活動領域で，高度な専門的かつ総合的な認識力・判断力をもってそれぞれの専門分野で指導的立場に立つ職業人の養成及び既成の枠を超えて諸科学間の有機的な関連を獲得できる独創的な学問研究者の育成を目指す」という総合社会情報研究科の教育目的達成に向け，専攻・各分野において，次のような方針で教育課程を編成し，コースワークにて教育を行う。

①必修科目として研究法入門１（2単位）及び研究法入門2（2単位）を設定し，質の高い修士論文の作成のために必要な基本的知識と能力の修得を実現するために，以下の内容を実施する。
（1）研究法入門１では，e-learningによる通信教育（在宅学習・オンデマンド方式）により，各分野に共通する修士論文の執筆，研究に必要な知識を修得する。学修成果については，最終リポートの完成度，作成過程における質問への応答，リポートの改善状況，及び研究計画書（研究経過報告書）等により評価を行う。
（2）研究法入門2では，対面方式による講義の受講あるいは意見交換・ピアラーニングに参加するとともに，あらかじめ設定された課題についてレポートを提出することで必要な学修を行う。対面講義では，質疑応答を多く取り入れた双方向型の学修を行う。レポート課題では，国際情報，文化情報，人間科学に共通する研究に必要なテーマによる学修に加え，それぞれの分野において基礎となる専門知識あるいは研究方法の修得が可能となる基本書によって学修する。各分野の基礎となる専門知識は，国際情報分野では，経済・経営領域，国際・政治領域に関する知識，文化情報分野では，文化・文学領域及び言語学領域に関する知識，人間科学分野では，哲学，教育学，心理学の諸領域，及び，健康・スポーツ科学領域に関する知識である。学修成果については，対面講義における参加状況及び，最終リポートの完成度，作成過程における質問への応答，リポートの改善状況，等により評価を行う。
②特別研究（6単位）として，各専門分野において，必要な研究指導を受け修士論文を作成する。
③専門分野における選択科目（20単位）として，以下の内容で実施する。
（1）専門分野における選択科目の学修は，e-learningによる通信教育（在宅学習）を通して実施する。学修は，各分野・各科目において選定された基本書に対してあらかじめ設定された課題についてレポートの提出とそれに対する担当教員の指導を繰り返す，双方向型で進められる。なお，選択科目は，修了要件の範囲で全ての専門分野の科目から選択することができる。
（2）学修成果については，最終リポートの完成度，作成過程における質問への応答，リポートの改善状況，等により評価を行う。なお，専攻における選択科目の選定にあたっては，特別研究の指導教員が学生の希望を尊重したうえで履修指導を行う。

**国際情報分野**
①専門教育として履修する選択科目（20単位）は，経済・経営の領域においては経済理論を中心とした科目群，グローバル経営戦略を中心とした科目群，ファミリービジネス論を中心とした科目群，国際・政治領域においては国際政治論を中心とした科目群，現代政治論を中心とした科目群，及び他分野で開講される科目の学びを通じて，社会課題に対する見識，解決に係る固有の考えを向上させる。
②また，国際情勢の帰趨と世界と日本の在り方に対する広い視野と鋭敏な感覚を持ち，経営・経済及び国際（関係）・政治の分野で，指導的かつ先端的な役割を担い，国際化・グローバル化の現代課題に自主的に取り組むことができる資質・能力を修得するため，特別研究を必修科目（6単位）として設定し，以下の内容を実施する。
・学位授与にふさわしい修士論文を作成するために，研究目的の設定，先行研究のレビュー，仮説の構築，論証（検証），論証（検証）結果の考察などについて，対面式あるいはWEBを使ったゼミ形式により，マンツーマンの双方向型の学修を行う。
・学修成果については，論文の完成度，論文作成過程におけるコミットメントの程度，等により評価を行う。

**文化情報分野**
①専門教育として履修する選択科目（20単位）として，文化・文学領域では，比較文化関連科目，日本・アジア圏文化関連科目，英語圏文化関連科目群を設定し，比較文学を軸に多様な文化的所産を歴史社会的文脈で理解する文化リテラシーを高める。言語学領域では，言語教育関連科目群，言語学関連科目群，日本語教育関連科目群，英語教育関連科目群を設定し，他分野で開講される科目とあわせて，国境を越えて移

動する人々の言語と文化の様相を理解し，支援する能力を向上させる。
②多文化多言語社会の中で，多様な価値を受容し，相互理解を深めながら，地球市民として実務的・専門的立場からグローバル・コミュニティの構築に寄与する資質・能力を修得するため，特別研究を必修科目（6単位）として設定し，以下の内容を実施する。
・学位授与にふさわしい修士論文を作成するために，研究目的の設定，先行研究のレビュー，仮説の構築，論証（検証），論証（検証）結果の考察などについて，対面式あるいはWEBを使ったゼミ形式により，ゼミ生同士の協働学修と教師と学生のマンツーマンの双方向型の学修を組み合わせた指導を行う。
・学修成果については，論文の完成度，論文作成過程におけるコミットメントの程度，等により評価を行う。

**人間科学分野**

①専門教育として履修する選択科目は，それぞれの領域において，以下のように開講される。哲学領域では，人間の生き方と社会のあり方を追求する知力を育成し，現代社会の問題や人間の根源・幸福について論考を進める科目群，心理学領域では，心理学について十全の知識・認識を基盤にして，現代社会の根本的な課題とニーズに対応した問題解決のための検証能力をもった人材を育成する科目群，教育学領域では，教育現場で諸問題に対応できる理論的裏付けを持った実践的な対処策を策定・実施できる人材を育成する科目群である。また，健康・スポーツ科学領域では，医療・福祉，産業保健，及び生命科学に関わる分野において，ヒトの健康の向上とリスク管理のための支援システムを構築し，遂行できる人材の養成と，スポーツ科学理論を基盤に，スポーツの現代社会的問題を研究し，遂行できる人材を養成することにつながる科目群であり，いずれも，他分野で開講される科目とあわせて，それぞれの領域での研究・活動を実現できる能力を向上させる。
②様々な社会的活動領域において，現代の先端的なニーズに対応し，人間存在の基本問題について十分な知見を持って活躍できる資質・能力を修得するため，特別研究を必修科目（6単位）として設定し，以下の内容を実施する。
・学位授与にふさわしい修士論文を作成するために，研究目的の設定，先行研究のレビュー，仮説の構築，論証（検証），論証（検証）結果の考察などについて，対面式あるいはWEBを使ったゼミ形式により，ゼミ生同士の協働学修及び教員と学生のマンツーマンの双方向型の学修を組み合わせた指導を行う。
・学修成果については，論文の完成度，論文作成過程におけるコミットメントの程度，等により評価を行う。

## アドミッション・ポリシー

①通信制の独立大学院として，国際情報分野，文化情報分野，人間科学分野の各分野において，現代社会の種々の活動領域で研究や仕事に従事しながら，高度な専門性を身につけ，新しい道を切り拓き，リードしていけるような人材を，下記の試験方法により受け入れる。
（1）論文試験により，各専攻分野について学士程度の知識をもち，提示された課題について所定の時間内に論理的に思考し，結論をどのようにするかを判断し，それらを文章として表現することを求める。
（2）口述試験により，より専門的な知識の修得，理解力，判断力，問題解決能力，リーダーシップ力，コミュニケーション力，自律的研究遂行能力を身に付ける可能性があるかどうかについて，判定する。
②総合社会情報専攻（博士前期課程）での学術生活において，①知識・能力，②思考力・判断力・表現力，③主体的で協調的な態度について，試験に基づく判断により，十分な水準を満たすことが求められる。
③上記の方針のもと，各分野では次のような学生を歓迎する。

**国際情報分野**

国際情勢の帰趨と世界と日本のあり方に対する広い視野と鋭敏な感覚を持ち，経営・経済・政治・行政・国際関係・言論等の分野で，指導的かつ先端的な役割を担う人材として，国際化・グローバル化の現代課題に自主的に取り組むことを目指すもの。

**文化情報分野**

言語と文化の教育，文化翻訳，異文化間コミュニケーション等の領域において文化の受信・発信・媒介のエキスパートとして，より良いグローバル・コミュニティの創生に寄与することを目指すもの。

**人間科学分野**

哲学・教育・心理に係る諸領域において，現代社会に内在する問題について論考し，問題解決に取り組むことを目指すもの。
健康・スポーツ科学領域においては，健康・運動能力の向上に対し身体面・メンタル面から寄与することを目指すもの。

# ▶博士後期課程

## ディプロマ・ポリシー

先端的かつ高度な専門性と総合性を兼ね備えた研究者及び職業人を養成するとともに，自己啓発・自己実現を達成しようとする者を学術的に支援するため，以下のような知見と能力の修得を単位修得，博士論文，学会活動および業績などによって例証した者に学位を授与する。

1）当該学術分野における理論，方法，情報に関する専門知識と自律的研究遂行能力
2）学術的研究成果を国際社会・地域社会に還元するための情報発信力
3）変化する社会環境や多様な価値観を読み解き，正当な批判と評価を行う判断力
4）地球市民のモラルを修養し，公民社会の構築維持に寄与する実践力
5）当該学術分野における広範かつ先端的な知識と社会経験に基づく教育指導力
6）実社会活動と学術研究を相互補完させ，社会文化の総合的進展に寄与する能力

論文審査にあたっては，下記の審査項目に基づいて行う。
1）研究主題，理論，研究方法，情報収集・処理の妥当性
2）論旨の明確性および独創性
3）論文の統合性および論証の一貫性
4）構成，形式，表現，表記の適切性
5）研究の学際性および超域性
6）当該学術分野における評価と貢献度
7）国内外に向けての発信情報としての可能性

## カリキュラム・ポリシー

高度な専門性と総合性をもつ研究者及び職業人を育成するため，前期課程3分野に基づいた3分野からなる組織構成とすることにより専門性を高めつつ，他分野の教員の指導も受けられる1専攻組織とすることにより広い分野にまたがる総合性を醸成する。学修・研究の進捗状況を定期的に評価・指導することに加え，研究の総合性を高めるため，1年次は秋季に1回，2年次は春季と秋季にそれぞれ各1回の口頭発表を行い，専門が異なる指導教員以外の教員による指導・評価を実施する。3年次には，研究者としての資質が獲得されたかどうかを問う予備試験を実施する。そのうえで，客観的指標として学術論文等の業績が十分かどうかを評価する。

## アドミッション・ポリシー

高度な専門性と総合性をもつ研究者及び職業人を育成するため，以下の3点を満たす学生を求めている。

1.各分野の専門家として，当該分野の知識・技能を十分有する学生。
2.当該分野の発展に寄与するために，思考力・判断力・表現力に優れ，オリジナルな研究が遂行できる学生。
3.他分野とも共同して研究ができ，社会貢献に意欲的な学生。

日本大学 大学院 総合社会情報研究科

〒102-8251 東京都千代田区五番町12-5（日本大学通信教育部3号館）

入学に関する問い合わせ先：日本大学通信教育部教務課

TEL 03-5275-8277

Web Site https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp

受付時間 10:00～17:00（月～金） 9:00～12:00（土）